

科目区分	社会と人間系列／松蔭とキリスト教系列						
科目名	旧約聖書を学ぶ						
担当教員	宮田 玲					科目ナンバ-	Z12030
学期	前期／1st semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	2～3	単位数	2.0
授業のテーマ	モーセ五書を読む						
授業の概要	<p>旧約聖書には新約聖書よりもなじみ薄い人が多いのではないかと思います。意外と私たちの知っている話も含まれています。</p> <p>旧約聖書の中でもっとも基本的な内容が記されているのが「モーセ五書」と呼ばれる部分です。旧約聖書の最初におかれた「創世記」、「出エジプト記」、「レビ記」、「民数記」、「申命記」の五つの書を指します。エデンの園やノアの箱舟などの物語もこの中に含まれています。また、新約聖書のエピソードの背景となっているものもあります。</p> <p>授業では、モーセ五書をしっかり読みすすめながら、旧約聖書についての理解を深めていきます。特に、「創世記」と「出エジプト記」からはいくつかの物語を取り上げて、これまでどのように読まれてきたかを紹介します。</p>						
到達目標	<p>旧約聖書の中で主要な位置を占めるモーセ五書について、基本的な知識を獲得でき、書かれている内容や物語を説明できるようになります。【知識・理解】</p> <p>また、旧約聖書と新約聖書およびキリスト教を関連づけることができるようになります。【知識・理解】</p>						
授業計画	<p>第1回 新約聖書と旧約聖書</p> <p>第2回 聖書の舞台</p> <p>第3回 物語(1) アダムとイブの物語</p> <p>第4回 モーセ五書の成り立ち</p> <p>第5回 物語(2) ノアの洪水</p> <p>第6回 物語(3) バベルの塔</p> <p>第7回 物語(4) ミニテスト、アブラハムの物語</p> <p>第8回 物語(5) アブラハムとサラをめぐる</p> <p>第9回 物語(6) イサク奉獻</p> <p>第10回 物語(7) ヤコブ</p> <p>第11回 物語(9) 出エジプト：モーセ</p> <p>第12回 物語(10) 出エジプト：エジプトから荒野へ</p> <p>第13回 物語(11) 十戒</p> <p>第14回 物語(12) カナンへ：モーセの死</p> <p>第15回 まとめ、私たちにとっての旧約聖書、質疑応答と試験</p>						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	<p>授業前準備学習：次回扱う指定箇所を読み、前回の授業との関連性を予習してきてください。(2時間)</p> <p>授業後学習：その回の授業テーマとキーワードについて要点を文章にまとめてください。(2時間)</p>						
授業方法	<p>講義</p> <p>授業で取り上げるテーマにしたがって、受講生の意見を求め、それに対するフィードバックを行ないながら聖書を読みすすめます。</p>						
評価基準と評価方法	<p>期末試験 60%：基本的な用語の確認と、聖書をどのように読めるかという二点を中心として、授業で学んだことの理解度を評価します。</p> <p>平常点 40%：毎回の聖書箇所朗読とミニテストに加えて、テーマへのレスポンスペーパーの提出を求めます。</p> <p>テストの詳細はmanabaでお伝えします。</p>						
履修上の注意	12回以上の出席を求めます。						
教科書	資料を毎回配布します。出席者のみ受け取ることができます。						
参考書	<p>授業内で関連参考図書を紹介します。</p> <p>並木浩一・荒井章三(編)『旧約聖書を学ぶ人のために』世界思想社 2012年 ISBN:978-4790715566</p> <p>石川立・中村信博・越後屋朗(編)『聖書 語りの風景』キリスト新聞社 2006年 ISBN:978-4873954762</p>						

科目区分	社会と人間系列／松蔭とキリスト教系列						
科目名	教会音楽入門A						
担当教員	緋田 芳江					科目ナンバ-	Z1213A
学期	前期／1st semester	曜日・時限	火曜5	配当学年	2～3	単位数	2.0
授業のテーマ	歌唱演習と鑑賞を通して教会音楽を学ぶ						
授業の概要	平易な聖歌やミサ曲の歌唱および芸術作品の鑑賞を通じて教会音楽を学ぶ。歌詞の発音や単語の意味を学び、読譜力を養い、歌唱力を身につける。歌唱と関連付けながらより高次の芸術作品を鑑賞し、教会音楽への理解を深める。						
到達目標	教会音楽について概要を理解し説明することが出来る【知識・理解】 楽譜を読んで歌唱することが出来る【汎用的技能】 他者と協力し演奏を実現することが出来る【態度・志向性】 芸術を理解し楽しむことが出来る【態度・志向性】						
授業計画	第1回 授業の説明。歌唱の楽しみ 「ドナ・ノービス・パーチェム」 第2回 ハーモニーの喜び 「マニフィカト」 第3回 ラテン語歌詞と楽譜の読み方「タントウム・エルゴ」 第4回 ミサ曲を学ぶ（グノー「2声のミサ曲」の歌唱演習とバッハ「口短調ミサ曲」の鑑賞）「キリエ」1 第5回 ミサ曲を学ぶ「キリエ」2 第6回 ミサ曲を学ぶ「グロリア」1 第7回 ミサ曲を学ぶ「グロリア」2 第8回 ミサ曲を学ぶ「グロリア」3 第9回 チャペルで歌い、オルガンを聴く。 第10回 ミサ曲を学ぶ「サンクトゥス」 第11回 ミサ曲を学ぶ「オー・サルタリス・オステリア」 第12回 ミサ曲を学ぶ「アニュス・デイ」 第13回 ミサ曲全曲の復習 第14回 チャペルで歌い、オルガンを聴く。2 第15回 まとめと試験						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：各回授業で配布する資料と楽譜による予習を行う（学習時間：2時間） 授業後学習：授業後にmanabaに掲載する参考資料、音源等を活用して復習する（学習時間：2時間）						
授業方法	歌詞（ラテン語）の発音練習をし、単語や文章の意味を学ぶ。聖書箇所等を参照する。階名または母音で譜読みをし、歌詞を付けて歌う。グループまたはペアで2声の練習をする。鑑賞の感想などをディスカッションする。						
評価基準と評価方法	授業態度50% レポート20% 発表・歌唱テスト30% 授業態度：歌唱への取り組み姿勢、アンサンブルの積極性と協調性 他者の演奏や鑑賞を聴く態度 レポート：授業で学んだ内容の理解を確認し考察を評価する。レポートを添削しフィードバックする 発表・歌唱テスト：歌唱の習熟度と歌唱・発表の態度を評価する。 出席回数が開講日数の2/3に満たない場合は原則単位認定を行わない						
履修上の注意	歌うこと、聴くこと、音楽全般に対する積極的な姿勢が望まれる						
教科書	プリントを配布する						
参考書	「キリスト教と音楽 ヨーロッパ音楽の源流をたずねて」音楽之友社 ISBN-13 978-4276110588 「ミサ曲・ラテン語・教会音楽ハンドブック」ハンナ ISBN-13 978-4883641475						

科目区分	社会と人間系列／松蔭とキリスト教系列						
科目名	教会音楽入門B						
担当教員	緋田 芳江					科目ナンバ-	Z1213B
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	火曜5	配当学年	2～3	単位数	2.0
授業のテーマ	教会音楽への理解を深め、歌唱力と芸術への理解力を身につける						
授業の概要	英語讃美歌とドイツ・コラールを練習し歌唱力を身につける。 教会カンタータやオラトリオの鑑賞により芸術を理解する力を養う。 クリスマス・キャロルを練習し、聖書を読み、クリスマス音楽礼拝を皆で作りに上げる喜びを知る。 レクイエムを鑑賞し、追悼の音楽について学ぶ。						
到達目標	教会音楽について説明することが出来る【知識・理解】 楽譜を読み、英語・ドイツ語の楽曲を歌うことが出来る【汎用的技能】 他者と協力・協調して演奏を実現することが出来る【態度・志向性】 キリスト教文化への理解を深めることができる【態度・志向性】						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 英語讃美歌を歌う「アメージング・グレイス」</li> <li>2. 英語讃美歌を歌う「まもなくかなたの」</li> <li>3. ドイツ・コラールを学ぶ1「主よ人の望みの喜びよ」</li> <li>4. ドイツ・コラールを学ぶ2「起きよ、夜は明けぬ」</li> <li>5. ドイツ・コラールを学ぶ3「血潮したたる」</li> <li>6. チャペルで歌う、オルガンを聴く。</li> <li>7. メサイア を学ぶ 第1部</li> <li>8. メサイア を学ぶ 第2部</li> <li>9. メサイア を学ぶ 第3部</li> <li>10. クリスマス・キャロルを歌う1</li> <li>11. クリスマス・キャロルを歌う2</li> <li>12. クリスマス・キャロルを歌う3</li> <li>13. 讃美と聖書朗読でクリスマスを祝う</li> <li>14. 追悼の音楽：レクイエムを聴き、アヴェ・ヴェルム・コルプスを歌う</li> <li>15. まとめとテスト</li> </ol>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：授業で学ぶ項目の下調べと読譜、練習などの予習。（学習時間：2時間） 授業後学習：授業で学んだ作品についてmanabaに掲載する資料、練習用音源、参考音源・動画等を活用し復習する。（学習時間：2時間）						
授業方法	歌詞の発音と意味を学び、歌唱練習を行う。 ドイツ・コラール（讃美歌）を歌い、同じコラールを用いたバッハの作品を鑑賞する。 ヘンデルのメサイア を鑑賞し、クリスマス・キャロルを練習する。 歌唱練習を繰り返すことで、読譜力、歌唱力を養い、教会音楽への理解を深める。						
評価基準と評価方法	授業態度50% レポート20% 歌唱テスト30% 授業態度：歌唱、鑑賞の態度を評価 レポート：学んだ内容の理解の確認と考察の評価 添削しフィードバックを行う 歌唱テスト：歌唱演習の習熟度と演唱態度を評価 出席回数が開講日数の2/3に満たない場合は原則単位認定を行わない						
履修上の注意	歌うこと、聴くこと、音楽全般に対する積極的な姿勢が望まれる						
教科書	プリントを配布する						
参考書	「キリスト教と音楽 ヨーロッパ音楽の源流をたずねて」音楽之友社 ISBN-13 978-4276110588 「歌うドイツ語ハンドブック」ハンナ ISBN978-4883641727						

科目区分	社会と人間系列／松蔭とキリスト教系列						
科目名	キリスト教思想／キリスト教思想I						
担当教員	濱崎 雅孝					科目ナンバ-	Z12050
学期	前期／1st semester	曜日・時限	月曜1	配当学年	2～3	単位数	2.0
授業のテーマ	キリスト教の基礎を踏まえて、キリスト教の教理が西洋思想に与えた影響について考察する。 キリスト教神学のなかで、特に人間論に関わるものを解説する。						
授業の概要	本講座の目的は、必修科目「神戸松蔭とキリスト教」「キリスト教の基礎」の履修を終えた学生が、さらにキリスト教についての理解を深めて、現代の教養の基礎を習得することにある。 キリスト教の思想は西洋文化の土台となっているので、それを学ぶことによって国際社会で生きるための確かな知恵と知識を習得できる。						
到達目標	(1) 建学の精神の土台であるキリスト教とその人間観を理解している。【知識・理解】 (2) 社会、文化、自然等に関わる幅広い教養を身につけている。【知識・理解】						
授業計画	第1回 人間の本性と発展 第2回 人間に自由意志はあるのか 第3回 人間は神を知ることができるのか 第4回 人間の自己中心性は悪いことなのか 第5回 キリストは神なのか人間なのか 第6回 すべての苦悩の原因は人間の欲望なのか 第7回 人は本当に一人では生きられないのか 第8回 人間と動物の違いは何か 第9回 近代文明と人間の疎外について 第10回 愛とは何か 第11回 人間に芸術は必要か 第12回 なぜ宗教があるのか 第13回 人は死んだらどうなるのか 第14回 これからの世界とキリスト教 第15回 まとめと期末試験						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業では神学の専門書からの引用を用いますが、関連する聖書の箇所を提示しますので、受講生は各自で聖書を読んでおく必要があります。毎回の授業で扱った聖書の箇所を次の授業日までに読んで、授業の復習をします（学習時間の目安：4時間/週）。						
授業方法	講義形式です。						
評価基準と評価方法	平常点：30%（毎回の授業で小レポートを提出してもらいます。レポートの内容によって毎回2点/1点/0点と評価していきます。欠席の場合は0点になります。） 期末試験：70%（授業全体の内容をどれだけ理解していたかを試す試験を最終回に行います。）						
履修上の注意	4回以上欠席した学生は、原則として不合格とします。 細かい点数配分などについては、初回の授業で説明します。						
教科書	特にありません。毎回、資料プリントを配布します。						
参考書	必要に応じて講義内で紹介します。						

科目区分	社会と人間系列／松蔭とキリスト教系列						
科目名	キリスト教と諸宗教						
担当教員	木鎌 耕一郎					科目ナンバ-	Z12090
学期	前期／1st semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	2～3	単位数	2.0
授業のテーマ	多元時代のキリスト教と諸宗教						
授業の概要	国際的な人の移動が日常化し、諸宗教が相接する機会が増えた今日、世界の諸宗教をより良く理解することが不可欠になっている。本講座の目的は世界の主要宗教を概観すると共に、それとの比較を通してキリスト教についての理解を深めていくことにある。まず宗教とは何かを考え、旧新約聖書の信仰を踏まえた上で、キリスト教と共に世界宗教である仏教やイスラム教などを取り上げ、これらをキリスト教と対比する。また、日本人の宗教性にも光を当てる。こうした私たちの生きる「地球村」への理解を深めることも本講座の目的である。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・世界の諸宗教に見られる多様な信仰構造について理解し、説明することができる。(知識・理解)</li> <li>・日本人の宗教観と日本の宗教の基礎について理解し、説明することができる。(知識・理解)</li> <li>・ユダヤ教とキリスト教の関係性について理解し、説明することができる。(知識・理解)</li> <li>・諸宗教に関する学びを通して、異文化への関心を高め、他者への敬意を意識することができる。(態度・志向性)</li> </ul>						
授業計画	第1回：オリエンテーション（授業の概要、学習方法、成績評価に関する説明） 第2回：宗教の起源（考古学的成果に見る宗教の萌芽、19世紀の宗教研究、アニミズム） 第3回：神話（神話の源流、創世神話の類型、世界創世神話の事例、旧約聖書「創世記」、神話批判） 第4回：儀礼（宗教儀礼と年中行事、消極的儀礼と積極的儀礼、イニシエーション） 第5回：日本人の宗教観（宗教統計調査、宗教意識の国際比較） 第6回：日本の宗教概観（神道、仏教、神仏習合） 第7回：近代日本の宗教政策（キリスト教の受容、国家神道、祭政一致と政教分離、神仏分離令）—第1回まとめテスト 第8回：国教制度と政教分離（西洋の国教制度史、宗教改革と国教制度、近代革命と政教分離） 第9回：宗教間関係（ユダヤ教、イスラム教、キリスト教、共通性と相違、正典の構造） 第10回：古代・中世におけるユダヤ教とキリスト教の関係（エクレシアとシナゴグ、十字軍、『ヴェニスの人』） 第11回：近代におけるユダヤ教とキリスト教の関係（近代革命、啓蒙思想、ハスカラ、ユダヤ知識人） 第12回：反ユダヤ主義とショアー（ホロコースト、コルベ神父、エディット・シュタイン、『夜と霧』） 第13回：反ユダヤ主義の思想的根拠（無神論、フォイエルバッハ、マルクス、ニーチェ） 第14回：現代におけるユダヤ教とキリスト教の対話（第二バチカン公会議、ヨハネ・パウロ2世） 第15回：宗教間対話の展開（講義の総括と展望）—第2回まとめテスト						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業前準備学習：シラバスの各回授業のキーワードを図書やインターネットによって下調べをして、自分なりにノートにまとめる。（学習時間：2時間）</li> <li>・授業後学習：授業で扱った内容をノートにまとめ、授業内で示した課題に取り組む（学習時間：2時間）</li> </ul>						
授業方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義。一部の授業でグループワークを行なうことがある。</li> <li>・学期中に2回のまとめテストを実施する。</li> </ul>						
評価基準と評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業内での提出物50%（manabaの小テストや講義内容へのコメント）</li> <li>・2回のまとめテスト50%（授業内容に関する理解と知識の定着度の確認）</li> </ul>						
履修上の注意	授業回数の3分の1以上欠席した学生は、原則として不合格とする。						
教科書	なし。随時プリントを配布する。						
参考書	石井研士『プレステップ宗教学（プレステップシリーズ 08）』弘文堂 小原克博『一神教とは何か——キリスト教、ユダヤ教、イスラームを知るために』（平凡社新書）						

科目区分	社会と人間系列／松蔭とキリスト教系列						
科目名	キリスト教と文化／キリスト教と文化I						
担当教員	岩井 謙太郎					科目ナンバー	Z12070
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	2～3	単位数	2.0
授業のテーマ	キリスト教と文化との関わり						
授業の概要	本講義では、主として明治から現代までのキリスト教作家やキリスト教と関係がある文学作品（主にベストセラー小説）を取り上げて紹介し、それらを手がかりとしてキリスト教思想の特性を明らかにする。その際、キリスト教の学びの多様な特性についても紹介する。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・キリスト教の学びの多様な特性について説明することができる。【知識・理解】</li> <li>・近現代日本文学作品に見られるキリスト教思想の特性について説明することができる。【知識・理解】</li> <li>・キリスト教と世俗的文化との関係性について説明することができる。【知識・理解】</li> </ul>						
授業計画	<p>以下のテーマを中心に授業を進めていく。</p> <p>第1回 オリエンテーション／キリスト教と文化との関係性  第2回 キリスト教思想の特性① 神学  第3回 キリスト教思想の特性② 宗教哲学  第4回 キリスト教思想の特性③ 現代宗教学  第5回 キリスト教思想の特性④ 現代宗教学  第6回 夏目漱石『こころ』  第7回 筒井康隆『誰にもわかるハイデガー』  第8回 キリスト教における死生観の問題  第9回 志賀直哉『暗夜行路』  第10回 キリスト教における赦しの問題  第11回 三浦綾子『氷点』  第12回 キリスト教における罪の問題  第13回 遠藤周作『深い河』  第14回 キリスト教における他宗教との関わりの問題  第15回 まとめ／近代日本文学とキリスト教思想との関係性</p>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	<p>授業前準備学習：各回授業で取り扱うキーワードについて書籍やインターネット等で調べておくこと（学習時間2時間）</p> <p>授業後学習：授業で学んだ学習内容をノートにまとめて整理・確認すること（学習時間2時間）</p>						
授業方法	講義科目ではあるが、授業内容に対する要望や意見などをアンケートし、出来るだけ受講者各人の主体的関心を反映させながら授業を進めたい。また、理解の一助となるよう、映像（DVD等）の鑑賞も採り入れる予定である。						
評価基準と評価方法	<p>学期末に提出するレポート（60%）</p> <p>平常点【授業内容についてのコメント】（40%）</p>						
履修上の注意	授業回数の3分の2以上の出席に満たない受講者はレポートの提出資格を失うものとする。						
教科書	教科書は使用しない。 レジュメを適宜配布する。						
参考書	安森敏隆他編『キリスト教文学を学ぶ人のために』世界思想社、2002年 その他、講義テーマに即した参考文献を授業内で随時紹介していく。						

科目区分	社会と人間系列／松蔭とキリスト教系列						
科目名	キリスト教の基礎／キリスト教I						
担当教員	木鎌 耕一郎					科目ナンバ-	Z11020
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	キリスト教入門						
授業の概要	本講座の目的は、必修科目「神戸松蔭とキリスト教」の履修を終えた学生が、本学の建学精神の土台であるキリスト教に関する基礎的な知識、特にキリスト教の正典である旧新約聖書およびキリスト教信仰の中核をなすイエス・キリストについての基本的知識を習得することにある。まずキリスト教の基本的特徴および歴史の概略を学ぶ。次いでイエス時代のユダヤ社会の特質や旧新約聖書を概観した上で、福音書を読みながら、十字架と復活に至るイエスの生涯とその教えを考察しつつ、その今日的意義について探りを入れていく。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・キリスト教の基本的特徴や歴史の概略を理解し、説明することができる。(知識・理解)</li> <li>・旧約聖書と新約聖書の概要を理解し、説明することができる。(知識・理解)</li> <li>・キリスト教のメッセージに通じるものを、人々の生き方や世界における様々な出来事に見出すことができる。(汎用的技能) (態度・志向性)</li> </ul>						
授業計画	第1回：オリエンテーション（授業の概要と進め方、学習方法、成績評価に関する説明） 第2回：聖書の構造と成立史 第3回：創世記（天地創造、アダムとエバ） 第4回：創世記（アブラハム、イサク、ヤコブ） 第5回：創世記～出エジプト記（ヨセフ、モーセ、主の過越し、十戒） 第6回：レビ記、民数記、申命記 第7回：ヨシュア記、士師記、サムエル記 第8回：王国時代とバビロン捕囚、捕囚後のユダヤ思想、アポクリファ 第9回：イエス時代の宗教的・社会的状況（「神の国」、メシア待望、選民思想） 第10回：「神の国」をめぐるイエスと洗礼者ヨハネの言説 第11回：イエスの教え①（公生活、誕生場面に見る最初の来客、山上の説教） 第12回：イエスの教え②（神への愛と隣人愛、善きサマリア人のたとえ話、愛敵の思想） 第13回：裁判、死刑、復活（最高法院、神流罪、ポンシオ・ピラト、十字架刑） 第14回：聖霊降臨と使徒的伝承（使徒、救済の意味、原罪、ドグマ） 第15回：キリスト教の展開（まとめと展望） 期末試験						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業前準備学習：シラバスの各回授業のキーワードを図書やインターネットによって下調べをして、自分なりにノートにまとめる。（学習時間：2時間）</li> <li>・授業後学習：授業で扱った内容をノートにまとめ、授業内で示した課題に取り組む（学習時間：2時間）</li> </ul>						
授業方法	講義。一部の授業でグループワークと発表を行うことがある。						
評価基準と評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業内での提出物・課題50%（毎回の授業で松蔭manabaの小テストを行う。またレポート課題もある）</li> <li>・期末試験50%</li> </ul>						
履修上の注意	授業回数の3分の1以上欠席した学生は、原則として不合格とする。						
教科書	なし。随時プリントを配布する。						
参考書	日本聖書協会『聖書協会共同訳聖書』もしくは『新共同訳聖書』 竹下節子『知の教科書 キリスト教』講談社						

科目区分	社会と人間系列／松蔭とキリスト教系列						
科目名	キリスト教の基礎／キリスト教I						
担当教員	木鎌 耕一郎					科目ナンバ-	Z11020
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜4	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	キリスト教入門						
授業の概要	本講座の目的は、必修科目「神戸松蔭とキリスト教」の履修を終えた学生が、本学の建学精神の土台であるキリスト教に関する基礎的な知識、特にキリスト教の正典である旧新約聖書およびキリスト教信仰の中核をなすイエス・キリストについての基本的知識を習得することにある。まずキリスト教の基本的特徴および歴史の概略を学ぶ。次いでイエス時代のユダヤ社会の特質や旧新約聖書を概観した上で、福音書を読みながら、十字架と復活に至るイエスの生涯とその教えを考察しつつ、その今日的意義について探りを入れていく。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・キリスト教の基本的特徴や歴史の概略を理解し、説明することができる。(知識・理解)</li> <li>・旧約聖書と新約聖書の概要を理解し、説明することができる。(知識・理解)</li> <li>・キリスト教のメッセージに通じるものを、人々の生き方や世界における様々な出来事に見出すことができる。(汎用的技能) (態度・志向性)</li> </ul>						
授業計画	第1回：オリエンテーション（授業の概要と進め方、学習方法、成績評価に関する説明） 第2回：聖書の構造と成立史 第3回：創世記（天地創造、アダムとエバ） 第4回：創世記（アブラハム、イサク、ヤコブ） 第5回：創世記～出エジプト記（ヨセフ、モーセ、主の過越し、十戒） 第6回：レビ記、民数記、申命記 第7回：ヨシュア記、士師記、サムエル記 第8回：王国時代とバビロン捕囚、捕囚後のユダヤ思想、アポクリファ 第9回：イエス時代の宗教的・社会的状況（「神の国」、メシア待望、選民思想） 第10回：「神の国」をめぐるイエスと洗礼者ヨハネの言説 第11回：イエスの教え①（公生活、誕生場面に見る最初の来客、山上の説教） 第12回：イエスの教え②（神への愛と隣人愛、善きサマリア人のたとえ話、愛敵の思想） 第13回：裁判、死刑、復活（最高法院、神流罪、ポンシオ・ピラト、十字架刑） 第14回：聖霊降臨と使徒的伝承（使徒、救済の意味、原罪、ドグマ） 第15回：キリスト教の展開（まとめと展望） 期末試験						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業前準備学習：シラバスの各回授業のキーワードを図書やインターネットによって下調べをして、自分なりにノートにまとめる。（学習時間：2時間）</li> <li>・授業後学習：授業で扱った内容をノートにまとめ、授業内で示した課題に取り組む（学習時間：2時間）</li> </ul>						
授業方法	講義。一部の授業でグループワークと発表を行うことがある。						
評価基準と評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業内での提出物・課題50%（毎回の授業で松蔭manabaの小テストを行う。またレポート課題もある）</li> <li>・期末試験50%</li> </ul>						
履修上の注意	授業回数の3分の1以上欠席した学生は、原則として不合格とする。						
教科書	なし。随時プリントを配布する。						
参考書	日本聖書協会『聖書協会共同訳聖書』もしくは『新共同訳聖書』 竹下節子『知の教科書 キリスト教』講談社						



科目区分	社会と人間系列／松蔭とキリスト教系列						
科目名	キリスト教の基礎／キリスト教I						
担当教員	木鎌 耕一郎					科目ナンバ-	Z11020
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜1	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	キリスト教入門						
授業の概要	本講座の目的は、必修科目「神戸松蔭とキリスト教」の履修を終えた学生が、本学の建学精神の土台であるキリスト教に関する基礎的な知識、特にキリスト教の正典である旧新約聖書およびキリスト教信仰の中核をなすイエス・キリストについての基本的知識を習得することにある。まずキリスト教の基本的特徴および歴史の概略を学ぶ。次いでイエス時代のユダヤ社会の特質や旧新約聖書を概観した上で、福音書を読みながら、十字架と復活に至るイエスの生涯とその教えを考察しつつ、その今日的意義について探りを入れていく。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・キリスト教の基本的特徴や歴史の概略を理解し、説明することができる。(知識・理解)</li> <li>・旧約聖書と新約聖書の概要を理解し、説明することができる。(知識・理解)</li> <li>・キリスト教のメッセージに通じるものを、人々の生き方や世界における様々な出来事に見出すことができる。(汎用的技能) (態度・志向性)</li> </ul>						
授業計画	第1回：オリエンテーション（授業の概要と進め方、学習方法、成績評価に関する説明） 第2回：聖書の構造と成立史 第3回：創世記（天地創造、アダムとエバ） 第4回：創世記（アブラハム、イサク、ヤコブ） 第5回：創世記～出エジプト記（ヨセフ、モーセ、主の過越し、十戒） 第6回：レビ記、民数記、申命記 第7回：ヨシュア記、士師記、サムエル記 第8回：王国時代とバビロン捕囚、捕囚後のユダヤ思想、アポクリファ 第9回：イエス時代の宗教的・社会的状況（「神の国」、メシア待望、選民思想） 第10回：「神の国」をめぐるイエスと洗礼者ヨハネの言説 第11回：イエスの教え①（公生活、誕生場面に見る最初の来客、山上の説教） 第12回：イエスの教え②（神への愛と隣人愛、善きサマリア人のたとえ話、愛敵の思想） 第13回：裁判、死刑、復活（最高法院、神流罪、ポンシオ・ピラト、十字架刑） 第14回：聖霊降臨と使徒的伝承（使徒、救済の意味、原罪、ドグマ） 第15回：キリスト教の展開（まとめと展望） 期末試験						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業前準備学習：シラバスの各回授業のキーワードを図書やインターネットによって下調べをして、自分なりにノートにまとめる。（学習時間：2時間）</li> <li>・授業後学習：授業で扱った内容をノートにまとめ、授業内で示した課題に取り組む（学習時間：2時間）</li> </ul>						
授業方法	講義。一部の授業でグループワークと発表を行うことがある。						
評価基準と評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業内での提出物・課題50%（毎回の授業で松蔭manabaの小テストを行う。またレポート課題もある）</li> <li>・期末試験50%</li> </ul>						
履修上の注意	授業回数の3分の1以上欠席した学生は、原則として不合格とする。						
教科書	なし。随時プリントを配布する。						
参考書	日本聖書協会『聖書協会共同訳聖書』もしくは『新共同訳聖書』 竹下節子『知の教科書 キリスト教』講談社						

科目区分	社会と人間系列／松蔭とキリスト教系列						
科目名	キリスト教の基礎／キリスト教I						
担当教員	木鎌 耕一郎					科目ナンバ-	Z11020
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	キリスト教入門						
授業の概要	本講座の目的は、必修科目「神戸松蔭とキリスト教」の履修を終えた学生が、本学の建学精神の土台であるキリスト教に関する基礎的な知識、特にキリスト教の正典である旧新約聖書およびキリスト教信仰の中核をなすイエス・キリストについての基本的知識を習得することにある。まずキリスト教の基本的特徴および歴史の概略を学ぶ。次いでイエス時代のユダヤ社会の特質や旧新約聖書を概観した上で、福音書を読みながら、十字架と復活に至るイエスの生涯とその教えを考察しつつ、その今日的意義について探りを入れていく。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・キリスト教の基本的特徴や歴史の概略を理解し、説明することができる。(知識・理解)</li> <li>・旧約聖書と新約聖書の概要を理解し、説明することができる。(知識・理解)</li> <li>・キリスト教のメッセージに通じるものを、人々の生き方や世界における様々な出来事に見出すことができる。(汎用的技能) (態度・志向性)</li> </ul>						
授業計画	第1回：オリエンテーション（授業の概要と進め方、学習方法、成績評価に関する説明） 第2回：聖書の構造と成立史 第3回：創世記（天地創造、アダムとエバ） 第4回：創世記（アブラハム、イサク、ヤコブ） 第5回：創世記～出エジプト記（ヨセフ、モーセ、主の過越し、十戒） 第6回：レビ記、民数記、申命記 第7回：ヨシュア記、士師記、サムエル記 第8回：王国時代とバビロン捕囚、捕囚後のユダヤ思想、アポクリファ 第9回：イエス時代の宗教的・社会的状況（「神の国」、メシア待望、選民思想） 第10回：「神の国」をめぐるイエスと洗礼者ヨハネの言説 第11回：イエスの教え①（公生活、誕生場面に見る最初の来客、山上の説教） 第12回：イエスの教え②（神への愛と隣人愛、善きサマリア人のたとえ話、愛敵の思想） 第13回：裁判、死刑、復活（最高法院、神洗罪、ポンシオ・ピラト、十字架刑） 第14回：聖霊降臨と使徒的伝承（使徒、救済の意味、原罪、ドグマ） 第15回：キリスト教の展開（まとめと展望） 期末試験						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業前準備学習：シラバスの各回授業のキーワードを図書やインターネットによって下調べをして、自分なりにノートにまとめる。（学習時間：2時間）</li> <li>・授業後学習：授業で扱った内容をノートにまとめ、授業内で示した課題に取り組む（学習時間：2時間）</li> </ul>						
授業方法	講義。一部の授業でグループワークと発表を行うことがある。						
評価基準と評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業内での提出物・課題50%（毎回の授業で松蔭manabaの小テストを行う。またレポート課題もある）</li> <li>・期末試験50%</li> </ul>						
履修上の注意	授業回数の3分の1以上欠席した学生は、原則として不合格とする。						
教科書	なし。随時プリントを配布する。						
参考書	日本聖書協会『聖書協会共同訳聖書』もしくは『新共同訳聖書』 竹下節子『知の教科書 キリスト教』講談社						

科目区分	社会と人間系列／松蔭とキリスト教系列						
科目名	キリスト教の基礎／キリスト教I						
担当教員	木鎌 耕一郎					科目ナンバ-	Z11020
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	キリスト教入門						
授業の概要	本講座の目的は、必修科目「神戸松蔭とキリスト教」の履修を終えた学生が、本学の建学精神の土台であるキリスト教に関する基礎的な知識、特にキリスト教の正典である旧新約聖書およびキリスト教信仰の中核をなすイエス・キリストについての基本的知識を習得することにある。まずキリスト教の基本的特徴および歴史の概略を学ぶ。次いでイエス時代のユダヤ社会の特質や旧新約聖書を概観した上で、福音書を読みながら、十字架と復活に至るイエスの生涯とその教えを考察しつつ、その今日的意義について探りを入れていく。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・キリスト教の基本的特徴や歴史の概略を理解し、説明することができる。(知識・理解)</li> <li>・旧約聖書と新約聖書の概要を理解し、説明することができる。(知識・理解)</li> <li>・キリスト教のメッセージに通じるものを、人々の生き方や世界における様々な出来事に見出すことができる。(汎用的技能) (態度・志向性)</li> </ul>						
授業計画	第1回：オリエンテーション（授業の概要と進め方、学習方法、成績評価に関する説明） 第2回：聖書の構造と成立史 第3回：創世記（天地創造、アダムとエバ） 第4回：創世記（アブラハム、イサク、ヤコブ） 第5回：創世記～出エジプト記（ヨセフ、モーセ、主の過越し、十戒） 第6回：レビ記、民数記、申命記 第7回：ヨシュア記、士師記、サムエル記 第8回：王国時代とバビロン捕囚、捕囚後のユダヤ思想、アポクリファ 第9回：イエス時代の宗教的・社会的状況（「神の国」、メシア待望、選民思想） 第10回：「神の国」をめぐるイエスと洗礼者ヨハネの言説 第11回：イエスの教え①（公生活、誕生場面に見る最初の来客、山上の説教） 第12回：イエスの教え②（神への愛と隣人愛、善きサマリア人のたとえ話、愛敵の思想） 第13回：裁判、死刑、復活（最高法院、神流罪、ポンシオ・ピラト、十字架刑） 第14回：聖霊降臨と使徒的伝承（使徒、救済の意味、原罪、ドグマ） 第15回：キリスト教の展開（まとめと展望） 期末試験						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業前準備学習：シラバスの各回授業のキーワードを図書やインターネットによって下調べをして、自分なりにノートにまとめる。（学習時間：2時間）</li> <li>・授業後学習：授業で扱った内容をノートにまとめ、授業内で示した課題に取り組む（学習時間：2時間）</li> </ul>						
授業方法	講義。一部の授業でグループワークと発表を行うことがある。						
評価基準と評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業内での提出物・課題50%（毎回の授業で松蔭manabaの小テストを行う。またレポート課題もある）</li> <li>・期末試験50%</li> </ul>						
履修上の注意	授業回数の3分の1以上欠席した学生は、原則として不合格とする。						
教科書	なし。随時プリントを配布する。						
参考書	日本聖書協会『聖書協会共同訳聖書』もしくは『新共同訳聖書』 竹下節子『知の教科書 キリスト教』講談社						

科目区分	社会と人間系列／松蔭とキリスト教系列						
科目名	キリスト教の基礎／キリスト教I						
担当教員	木鎌 耕一郎					科目ナンバ-	Z11020
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ							
授業の概要	本講座の目的は、必修科目「神戸松蔭とキリスト教」の履修を終えた学生が、本学の建学精神の土台であるキリスト教に関する基礎的な知識、特にキリスト教の正典である旧新約聖書およびキリスト教信仰の中核をなすイエス・キリストについての基本的知識を習得することにある。まずキリスト教の基本的特徴および歴史の概略を学ぶ。次いでイエス時代のユダヤ社会の特質や旧新約聖書を概観した上で、福音書を読みながら、十字架と復活に至るイエスの生涯とその教えを考察しつつ、その今日的意義について探りを入れていく。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・キリスト教の基本的特徴や歴史の概略を理解し、説明することができる。(知識・理解)</li> <li>・旧約聖書と新約聖書の概要を理解し、説明することができる。(知識・理解)</li> <li>・キリスト教のメッセージに通じるものを、人々の生き方や世界における様々な出来事に見出すことができる。(汎用的技能) (態度・志向性)</li> </ul>						
授業計画	第1回：オリエンテーション（授業の概要と進め方、学習方法、成績評価に関する説明） 第2回：聖書の構造と成立史 第3回：創世記（天地創造、アダムとエバ） 第4回：創世記（アブラハム、イサク、ヤコブ） 第5回：創世記～出エジプト記（ヨセフ、モーセ、主の過越し、十戒） 第6回：レビ記、民数記、申命記 第7回：ヨシュア記、士師記、サムエル記 第8回：王国時代とバビロン捕囚、捕囚後のユダヤ思想、アポクリファ 第9回：イエス時代の宗教的・社会的状況（「神の国」、メシア待望、選民思想） 第10回：「神の国」をめぐるイエスと洗礼者ヨハネの言説 第11回：イエスの教え①（公生活、誕生場面に見る最初の来客、山上の説教） 第12回：イエスの教え②（神への愛と隣人愛、善きサマリア人のたとえ話、愛敵の思想） 第13回：裁判、死刑、復活（最高法院、神流罪、ポンシオ・ピラト、十字架刑） 第14回：聖霊降臨と使徒的伝承（使徒、救済の意味、原罪、ドグマ） 第15回：キリスト教の展開（まとめと展望） 期末試験						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業前準備学習：シラバスの各回授業のキーワードを図書やインターネットによって下調べをして、自分なりにノートにまとめる。（学習時間：2時間）</li> <li>・授業後学習：授業で扱った内容をノートにまとめ、授業内で示した課題に取り組む（学習時間：2時間）</li> </ul>						
授業方法	講義。一部の授業でグループワークと発表を行うことがある。						
評価基準と評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業内での提出物・課題50%（毎回の授業で松蔭manabaの小テストを行う。またレポート課題もある）</li> <li>・期末試験50%</li> </ul>						
履修上の注意	授業回数の3分の1以上欠席した学生は、原則として不合格とする。						
教科書	なし。随時プリントを配布する。						
参考書	日本聖書協会『聖書協会共同訳聖書』もしくは『新共同訳聖書』 竹下節子『知の教科書 キリスト教』講談社						

科目区分	社会と人間系列／松蔭とキリスト教系列						
科目名	キリスト教の歴史／キリスト教の歴史I						
担当教員	木鎌 耕一郎					科目ナンバ-	Z12060
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	火曜4	配当学年	2～3	単位数	2.0
授業のテーマ	キリスト教史入門						
授業の概要	本講座ではキリスト教の歴史を学ぶ。キリスト教は古代のパレスチナにユダヤ教を母体として生まれながら、はやくも1世紀にはその民族的な枠を脱し、その後二千年の時をかけて数他の文化や言語の壁を越えて世界中に広まった普遍宗教である。その過程で、各地の文化や社会を造りかえると共に、自らも大きな変貌を遂げていった。こうして今日のキリスト教は極めて多様性に富む宗教となっている。キリスト教のこのようなクロスカルチャルな歴史的発展のプロセスを様々な視点から考察していくのが、本講座の課題である。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・聖書の成立史と翻訳の歴史の概要を理解し、説明することができる。(知識・理解)</li> <li>・キリスト教と文学や映画等の文芸作品とのかかわりを知り、説明することができる。(知識・理解)</li> <li>・日本におけるキリスト教受容史の概要を理解し、説明することができる。(知識・理解)</li> <li>・キリスト教史の学びを通じて、諸宗教と異文化への関心を高め、他者への敬意を意識することができる。(態度・志向性)</li> </ul>						
授業計画	第1回：オリエンテーション（授業の概要、学習方法、成績評価に関する説明） 第2回：聖書の歴史1（旧約聖書の成立、聖書と言語、写本） 第3回：聖書の歴史2（アポクリファの成立と特徴） 第4回：聖書の歴史3（新約聖書の成立、パウロの書簡、福音書） 第5回：聖書の歴史4（聖書翻訳の歴史、ヒエロニムス、ルター） 第6回：聖書の歴史5（日本語）と聖書） 第7回：キリスト教と文芸1（西洋文学とキリスト教）—第1回まとめテスト 第8回：キリスト教と文芸2（日本文学とキリスト教） 第9回：キリスト教と文芸3（旧約清楚を描いた映画） 第10回：キリスト教と文芸4（新約聖書を描いた映画） 第11回：日本キリスト教史1（フランススコ・ザビエル、大航海時代） 第12回：日本キリスト教史2（ルイス・フロイス、『日本史』） 第13回：日本キリスト教史3（日本人キリシタン、高山右近、細川ガラシャ） 第14回：日本キリスト教史4（最後のバテレン、シドティ神父） 第15回：全体のまとめ—第2回まとめテスト						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業前準備学習：シラバスの各回授業のキーワードを図書やインターネットによって下調べをして、自分なりにノートにまとめる。（学習時間：2時間）</li> <li>・授業後学習：授業で扱った内容をノートにまとめ、授業内で示した課題に取り組む（学習時間：2時間）</li> </ul>						
授業方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義。一部の授業でグループワークを行なうことがある。</li> <li>・毎回manabaを用いた小テストを行う。</li> <li>・学期中に2回の「まとめテスト」を行なう。</li> </ul>						
評価基準と評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業内での提出物50%（manabaの小テスト、講義内容へのコメント）</li> <li>・2回のまとめテスト50%（授業内容に関する理解と知識の定着度の確認）</li> </ul>						
履修上の注意	授業回数の3分の1以上欠席した学生は、原則として不合格とする。						
教科書	なし。随時プリントを配布する。						
参考書	八木谷涼子『なんでもわかるキリスト教大事典』（朝日文庫） 五野井隆史『日本キリスト教史』（吉川弘文館） 鈴木範久『聖書の日本語 翻訳の歴史』（岩波書店）						

科目区分	社会と人間系列／松蔭とキリスト教系列						
科目名	キリスト教礼拝学						
担当教員	木鎌 耕一郎					科目ナンバ-	Z12100
学期	前期／1st semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	2～3	単位数	2.0
授業のテーマ	キリスト教礼拝入門 ―その実際と歴史―						
授業の概要	本講座の目的はキリスト教会の中心的営みである「礼拝」に対する理解を深めることにある。礼拝行為の自覚的・批判的考察が目的であるため、礼拝に関する実際の経験が前提となる。初回授業で本講座の概要を説明する。歴史的視点からキリスト教礼拝を考察し、 sacrament や多様な礼拝形態に対する理解を養う。さらに礼拝を実際に体験することを重視する。本学と歴史的に関係の深い聖公会等の礼拝を例として取り上げ、キリスト教礼拝の実際とその意味を考察する。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・キリスト教の礼拝に参加するために必要な基礎知識を理解し、説明することができる。(知識・理解)</li> <li>・キリスト教礼拝の歴史の概略と礼拝形式の多様性を理解し、説明することができる。(知識・理解)</li> <li>・フィールドワークでの学び(近隣教会での主日礼拝)を通して、礼拝に対する興味をより具体的なものとして意識することができる。(態度、志向性)</li> </ul>						
授業計画	<p>A. イントロダクション</p> <p>第1回：オリエンテーション(授業の概要、学習方法、成績評価方法に関する説明)</p> <p>第2回：神戸松蔭のチャペルと礼拝</p> <p>B. 歴史から見た礼拝</p> <p>第3回：考古学に見る礼拝行為</p> <p>第4回：諸宗教の礼拝形式</p> <p>第5回：旧約聖書に見るユダヤ教の礼拝形式 ～主の過越し、ヨム・キップル等～</p> <p>第6回：キリスト教の礼拝形式の成り立ち ～洗礼、主の晩餐、主の祈り～</p> <p>第7回：教会の一年 ～教会暦～</p> <p>第8回：ミサ(聖餐式)について ～ミサの次第、教会の中に置かれている様々なものの意味～ ―中間試験</p> <p>C. 礼拝の体験 ～フィールドワーク～</p> <p>第9回：本学チャペルでの礼拝体験(ヌーンサービス3回以上の出席)</p> <p>第10回：グループワーク(礼拝所・教会等の下調べ)</p> <p>第11回：教会の礼拝を体験する(聖公会)</p> <p>第12回：教会の礼拝を体験する(カトリック)</p> <p>第13回：諸宗教の礼拝所見学</p> <p>第14回：礼拝体験のふりかえり</p> <p>第15回：全体のまとめ</p> <p>※ Cの「フィールドワーク」の時期・訪問回数等は、訪問先の教会の都合に合わせて調整する。訪問先までの交通費(自費)が生じる。</p>						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業前準備学習：シラバスの各回授業のキーワードを図書やインターネットによって下調べをして、自分なりにノートにまとめる。また、折に触れて「祈祷書」「聖歌集」に触れて、親しんでほしい。(学習時間：2時間)</li> <li>・授業後学習：授業で扱った内容をノートにまとめ、授業内で示した課題に取り組む(学習時間：2時間)</li> </ul>						
授業方法	・講義形式に加えて、グループワークとフィールドワークを行う。						
評価基準と評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題点50%(manaba小テスト、レポート課題、中間テスト)</li> <li>・フィールドワークへの取り組みとレポート課題50%</li> </ul>						
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業回の三分の一以上欠席した学生は、原則として不合格とする。</li> <li>・フィールドワーク(礼拝体験)への参加は必須とし、これを満たさない場合は不合格とする。</li> <li>・参加する礼拝の場所、日程等、移動方法等については授業時間内に知らせるので注意すること。</li> </ul>						
教科書	なし。随時プリントを配布する。						
参考書	<p>日本聖書協会『聖書協会共同訳聖書』もしくは『新共同訳聖書』</p> <p>ウィリアム・ウィリモン『言葉と水とワインとパン～』(新教出版社)</p> <p>エドワード・フォーリー『時代から時代へ』(聖公会出版)</p> <p>『日本聖公会 祈祷書』(1990年)</p> <p>『日本聖公会 聖歌集』(2006年)</p>						

科目区分	社会と人間系列／松蔭とキリスト教系列						
科目名	くらしと憲法						
担当教員	吉川 正史					科目ナンバ-	Z11230
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	木曜4	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	目に見えないところで私たちのくらしにかかわっている日本国憲法について深く理解する。						
授業の概要	法体系における憲法の位置づけを確認し、法の意義・分類・解釈について概観したうえで、日本国憲法の内容について詳細に講義する。そこでは、人権保障および民主政治のしくみについて、それぞれ具体的事例も取り上げながら、わかりやすく解説することとする。						
到達目標	1. 日本国憲法における人権保障について理解し説明できるようになる。【知識・理解】 2. 日本国憲法における民主政治のしくみについて理解し説明できるようになる。【知識・理解】						
授業計画	第1回 イントロダクション～憲法とは何か 第2回 法の意義・分類・解釈 第3回 人権保障(1)子どもの人権・外国人の権利 第4回 人権保障(2)プライバシー権・自己決定権 第5回 人権保障(3)法の下での平等 第6回 人権保障(4)表現の自由 第7回 人権保障(5)信教の自由・営業の自由 第8回 人権保障(6)生存権・教育権 第9回 人権保障(7)死刑制度 第10回 民主政治のしくみ(1)天皇・平和主義 第11回 民主政治のしくみ(2)国会 第12回 民主政治のしくみ(3)内閣 第13回 民主政治のしくみ(4)裁判所・司法審査制 第14回 民主政治のしくみ(5)地方自治・憲法改正 第15回 日本国憲法総括						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	授業前学習：教科書または事前配布プリントの該当箇所を予習し、要点を整理しておく。(学習時間：<2時間>) 授業後学習：授業内容の要点をノートにまとめたうえで、小テスト(確認テスト)で理解度を確かめる。(学習時間：<2時間>)						
授業方法	講義： manabaを利用した小テスト(確認テスト)および期末レポートを実施する。						
評価基準と評価方法	小テスト(確認テスト)50% 期末レポート50%						
履修上の注意	事前配布プリントがあるときは、manabaにより配信する。 小テスト(確認テスト)および期末レポートは、提出期限を厳守すること。						
教科書	『いちばんやさしい憲法入門〔第6版〕』初宿正典・高橋正俊・米沢広一・棟居快行著 有斐閣 ISBN978-4-641-22150-5						
参考書							

科目区分	社会と人間系列／松蔭とキリスト教系列						
科目名	くらしと憲法						
担当教員	吉川 正史					科目ナンバ-	Z11230
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	木曜5	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	目に見えないところで私たちのくらしにかかわっている日本国憲法について深く理解する。						
授業の概要	法体系における憲法の位置づけを確認し、法の意義・分類・解釈について概観したうえで、日本国憲法の内容について詳細に講義する。そこでは、人権保障および民主政治のしくみについて、それぞれ具体的事例も取り上げながら、わかりやすく解説することとする。						
到達目標	1. 日本国憲法における人権保障について理解し説明できるようになる。【知識・理解】 2. 日本国憲法における民主政治のしくみについて理解し説明できるようになる。【知識・理解】						
授業計画	第1回 イントロダクション～憲法とは何か 第2回 法の意義・分類・解釈 第3回 人権保障(1)子どもの人権・外国人の権利 第4回 人権保障(2)プライバシー権・自己決定権 第5回 人権保障(3)法の下での平等 第6回 人権保障(4)表現の自由 第7回 人権保障(5)信教の自由・営業の自由 第8回 人権保障(6)生存権・教育権 第9回 人権保障(7)死刑制度 第10回 民主政治のしくみ(1)天皇・平和主義 第11回 民主政治のしくみ(2)国会 第12回 民主政治のしくみ(3)内閣 第13回 民主政治のしくみ(4)裁判所・司法審査制 第14回 民主政治のしくみ(5)地方自治・憲法改正 第15回 日本国憲法総括						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	授業前学習：教科書または事前配布プリントの該当箇所を予習し、要点を整理しておく。(学習時間：<2時間>) 授業後学習：授業内容の要点をノートにまとめたうえで、小テスト(確認テスト)で理解度を確かめる。(学習時間：<2時間>)						
授業方法	講義： manabaを利用した小テスト(確認テスト)および期末レポートを実施する。						
評価基準と評価方法	小テスト(確認テスト)50% 期末レポート50%						
履修上の注意	事前配布プリントがあるときは、manabaにより配信する。 小テスト(確認テスト)および期末レポートは、提出期限を厳守すること。						
教科書	『いちばんやさしい憲法入門〔第6版〕』初宿正典・高橋正俊・米沢広一・棟居快行著 有斐閣 ISBN978-4-641-22150-5						
参考書							



科目区分	社会と人間系列／松蔭とキリスト教系列						
科目名	健康・スポーツ総論						
担当教員	武村 政徳					科目ナンバ-	Z11100
学期	前期／1st semester	曜日・時限	水曜1	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	スポーツ文化の楽しみ方						
授業の概要	スポーツ文化へのかかわり方は、単に「する」ことだけに限りません。スポーツを「みる」ことは、現代社会の人々の生活にとって欠かすことのできない楽しみの一つであり、スポーツ大会やイベントを「ささえる」ことや興味や関心のあるスポーツについて「しらべる」ことも、大切な関わり方の一つです。授業では、現代社会におけるスポーツの価値を多角的に捉え、様々な楽しみ方や関わり方があることを見ていきます。						
到達目標	健康的な生活を送るために運動・スポーツの必要性があることを認識し、個人のスポーツニーズに合わせた運動・スポーツの楽しみ方を、生涯にわたり実践するための知識とスキルを身につけることができる。【態度・志向性】						
授業計画	第1回：ガイダンス、健康とスポーツについて考える 第2回：健康な生活やスポーツ活動をささえるからだ (1) 体力 第3回：健康な生活やスポーツ活動をささえるからだ (2) 筋 第4回：健康な生活やスポーツ活動をささえるからだ (3) からだをコントロールする！ 第5回：スポーツの向上をめざして (1) 筋肉つくりと筋力つくり 第6回：スポーツの向上をめざして (2) 「スタミナ」をつけるには？ 第7回：スポーツの向上をめざして (3) 様々なスポーツに必要な体力 第8回：スポーツの向上をめざして (4) 「体力がすべて」は本当？ 第9回：スポーツを楽しむための体力をつけよう!! 第10回：女子のスポーツ適性 (1) からだのなかみはスポーツ向き？ 第11回：女子のスポーツ適性 (2) 体力は大丈夫？ 第12回：トップアスリートにみるスポーツと体力 (1) からだの大きさとなかみ 第13回：トップアスリートにみるスポーツと体力 (2) 筋力とすばやさ、身体能力 第14回：成長・発達と老化と健康・スポーツ 第15回：まとめと試験						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：4回目以降は、松蔭manabaのコンテンツにある配布資料を事前に熟読し、次回の授業で質問する事に答えられるようにしておいて下さい。(学習時間:2時間) 授業後学習：毎回の授業で配布した資料を元に、授業で学習したことについて復習し、次回の授業で質問する事に答えられるようにしておいて下さい。(学習時間:2時間)						
授業方法	講義(松蔭manabaを活用して、配布資料を公開したり課題レポートを課したりする)						
評価基準と評価方法	試験：30%、小レポート：60%、平常点：10%、遅刻した場合は減点 欠席回数が5回以上の者は、授業最終回の試験を受けることができません。						
履修上の注意	20分以上の遅刻は欠席扱いとします。(交通機関延着による遅刻は、延着証明書がある場合は遅刻としない) 遅刻3回で欠席1回とみなします。 携帯電話やスマートフォンは授業で使用を許可した時以外は使用しないこと。 私語、居眠りは厳禁とします。 授業中の無断退出は認めません。退出の必要がある場合は、教員に申し出ること。						
教科書	使用しない。こちらで用意する資料を配付・使用します。						
参考書	現代の体育・スポーツ科学 コーチングの科学、福永哲夫・湯浅景元、朝倉書店、ISBN 4-254-69518-7						

科目区分	社会と人間系列／松蔭とキリスト教系列						
科目名	健康・スポーツ総論						
担当教員	武村 政徳					科目ナンバ-	Z11100
学期	前期／1st semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	スポーツ文化の楽しみ方						
授業の概要	スポーツ文化へのかかわり方は、単に「する」ことだけに限りません。スポーツを「みる」ことは、現代社会の人々の生活にとって欠かすことのできない楽しみの一つであり、スポーツ大会やイベントを「ささえる」ことや興味や関心のあるスポーツについて「しらべる」ことも、大切な関わり方の一つです。授業では、現代社会におけるスポーツの価値を多角的に捉え、様々な楽しみ方や関わり方があることを見ていきます。						
到達目標	健康的な生活を送るために運動・スポーツの必要性があることを認識し、個人のスポーツニーズに合わせた運動・スポーツの楽しみ方を、生涯にわたり実践するための知識とスキルを身につけることができる。【態度・志向性】						
授業計画	第1回：ガイダンス、健康とスポーツについて考える 第2回：健康な生活やスポーツ活動をささえるからだ (1) 体力 第3回：健康な生活やスポーツ活動をささえるからだ (2) 筋 第4回：健康な生活やスポーツ活動をささえるからだ (3) からだをコントロールする！ 第5回：スポーツの向上をめざして (1) 筋肉つくりと筋力つくり 第6回：スポーツの向上をめざして (2) 「スタミナ」をつけるには？ 第7回：スポーツの向上をめざして (3) 様々なスポーツに必要な体力 第8回：スポーツの向上をめざして (4) 「体力がすべて」は本当？ 第9回：スポーツを楽しむための体力をつけよう!! 第10回：女子のスポーツ適性 (1) からだのなかみはスポーツ向き？ 第11回：女子のスポーツ適性 (2) 体力は大丈夫？ 第12回：トップアスリートにみるスポーツと体力 (1) からだの大きさとなかみ 第13回：トップアスリートにみるスポーツと体力 (2) 筋力とすばやさ、身体能力 第14回：成長・発達と老化と健康・スポーツ 第15回：まとめと試験						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：4回目以降は、松蔭manabaのコンテンツにある配布資料を事前に熟読し、次回の授業で質問する事に答えられるようにしておいて下さい。(学習時間:2時間) 授業後学習：毎回の授業で配布した資料を元に、授業で学習したことについて復習し、次回の授業で質問する事に答えられるようにしておいて下さい。(学習時間:2時間)						
授業方法	講義(松蔭manabaを活用して、配布資料を公開したり課題レポートを課したりする)						
評価基準と評価方法	試験：30%、小レポート：60%、平常点：10%、遅刻した場合は減点 欠席回数が5回以上の者は、授業最終回の試験を受けることができません。						
履修上の注意	20分以上の遅刻は欠席扱いとします。(交通機関延着による遅刻は、延着証明書がある場合は遅刻としない) 遅刻3回で欠席1回とみなします。 携帯電話やスマートフォンは授業で使用を許可した時以外は使用しないこと。 私語、居眠りは厳禁とします。 授業中の無断退出は認めません。退出の必要がある場合は、教員に申し出ること。						
教科書	使用しない。こちらで用意する資料を配付・使用します。						
参考書	現代の体育・スポーツ科学 コーチングの科学、福永哲夫・湯浅景元、朝倉書店、ISBN 4-254-69518-7						

科目区分	社会と人間系列／松蔭とキリスト教系列						
科目名	現代のキリスト教						
担当教員	木鎌 耕一郎					科目ナンバ-	Z12080
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	2～3	単位数	2.0
授業のテーマ	現代社会の倫理的諸問題とキリスト教						
授業の概要	従来キリスト教は西洋の宗教とされてきたが、16世紀以来世界中に伝えられ、今日ではいわゆる「世界キリスト教」へと変容しつつある。それに伴い、キリスト教の文化的多様性とその一致の問題に関心が向けられるようになった。また欧米を中心に進行した世俗化への反動として、人々の間に神との親密な関わりを回復しようとする渴望が広がり、「霊性」に対する関心が教派や地域を超えて深まりを見せている。この講義では、このような今日のキリスト教をめぐる諸問題に光をあて、歴史的視点も交えつつ現代世界におけるキリスト教信仰の意義に探りを入れていく。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・西洋思想とキリスト教において「人間の尊厳」という概念がどのようなものとして理解されているかを知り、概略を説明することができる。(知識・理解)</li> <li>・現代社会の様々な倫理的課題とそれに対するキリスト教の関わりについて理解し、概略を説明することができる。(知識・理解)</li> <li>・現代社会の倫理的課題を理解することを通して、日常の暮らしの中にある倫理的課題を発見できるようになる。(汎用的技能) (態度・志向性)</li> </ul>						
授業計画	第1回：オリエンテーション（授業の概要、学習方法、成績評価に関する説明） 第2回：西洋思想史における人間の尊厳 第3回：キリスト教と人間の尊厳 第4回：東洋的人間観とキリスト教 第5回：隣人の範囲設定と社会的正当化 第6回：優生思想との対決 第7回：日本のハンセン病政策 —第1回まとめテスト 第8回：人工妊娠中絶と養子縁組制度 出生前診断 第9回：アメリカ社会と人工妊娠中絶 第10回：生殖補助医療の現在 第11回：尊厳死、安楽死 第12回：脳死と臓器移植 第13回：難民問題 第14回：環境問題 第15回：現代におけるキリスト教の課題（講義の総括と展望） —第2回まとめテスト						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業前準備学習：シラバスの各回授業のキーワードを図書やインターネットによって下調べをして、自分なりにノートにまとめる。グループワークの準備。(学習時間：2時間)</li> <li>・授業後学習：授業で扱った内容をノートにまとめ、授業内で示した課題に取り組む(学習時間：2時間)</li> </ul>						
授業方法	基本的に講義形式だが、一部の授業でグループワークを行なうことがある。						
評価基準と評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2回のまとめテスト50%（授業内容に関する理解と知識の定着度の確認）</li> <li>・毎回の授業内での課題50%（manabaの小テスト、講義内容へのコメント等）</li> </ul>						
履修上の注意	授業回数の3分の1以上欠席した学生は、原則として不合格とする。						
教科書	なし。随時プリントを配布する。						
参考書	浜口吉隆『キリスト教からみた生命と死の医療倫理』（東信堂） 長町裕司・高山貞美・永井敦子編『人間の尊厳を問い直す』（上智大学）						

科目区分	社会と人間系列／松蔭とキリスト教系列						
科目名	現代の倫理						
担当教員	濱崎 雅孝					科目ナンバ-	Z11260
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	現代社会の諸問題についての倫理的考察						
授業の概要	グローバル化が進む現代社会では、自分の意見をしっかりと持ち、それを他人にも分かる形で表現することが求められます。 この授業では、受講者一人一人がこれから社会で直面すると思われる倫理的問題を取り上げ、それについて各自が自分の意見を持つことができるように指導していきます。また、その自分の意見を、異なる世代、異なる文化背景を持つ人たちに正しく伝える技術を学びます。						
到達目標	(1) 社会に出たときにぶつかるであろう様々な人間関係の問題に対して、倫理的に正しく対処できるようになる。 【態度・志向性】 (2) 社会、文化、自然等に関わる幅広い教養を身につけている。【知識・理解】						
授業計画	第1回 善悪について、倫理とは何か、道徳とは何か 第2回 人間について、私とは誰か、人間らしい生き方とはどのようなものか 第3回 犯罪について、少年犯罪は増えているのか、その原因は何か 第4回 社会について、監視社会は平和なのか、社会を作っているのは誰か 第5回 殺人について、なぜ人を殺してはいけないのか 第6回 死刑について、死刑制度は必要か、裁判員制度は必要か 第7回 自殺について、死にたいと言う人を助けることは正しいか 第8回 教育について、なぜ勉強しなければいけないのか、義務教育は必要か 第9回 女性について、男女平等社会は実現できるのか、実現すべきなのか 第10回 母性について、母親になるとはどういうことか、母親の役割とは何か 第11回 父性について、父親の役割とは何か、父親は必要か 第12回 不倫について、不倫はなぜ悪いことなのか、浮気をするのは人間の本能か 第13回 麻薬について、麻薬の恐ろしさと、その犯罪性について 第14回 震災について、阪神大震災と東日本大震災、原発は必要か 第15回 戦争について、なぜ人類は戦争をやめないのか、これからの世界はどうなっていくか						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	新聞、雑誌、ネットニュースなどで、授業で扱った内容に関わるものを探し、その内容を把握する。また、授業で出てきた倫理学の用語などについて、不明な点は講師に質問するか、自分で調べておく。（学習時間：＜4時間＞/週）。						
授業方法	講義形式で行います。 講義で扱われたテーマについてペアでディスカッションを行い、その報告を踏まえて次のテーマを選んでいきます。 ペアを組むのが難しい場合は、紙上ディスカッションとして小レポートの内容を講師が発表し、それについての意見を述べてもらいます。						
評価基準と評価方法	平常点：30点（毎回の小レポートの内容を2点/1点/0点で採点していきます。欠席の場合は0点になります。） 期末試験：70点（授業全体の理解を試すテストを最終回に行います。）						
履修上の注意	毎回、深刻な事件（殺人などを含む）を題材とするので、上の授業計画に目を通して不安や不快感を持ってしまふ人にはお勧めできません。事前に自分で判断してから履修するようにして下さい。						
教科書	特に指定はしません。毎回プリントを配布します。						
参考書	講義の中で紹介します。						

科目区分	社会と人間系列／松蔭とキリスト教系列						
科目名	神戸研究総論						
担当教員	単位認定者：田附 敏尚					科目ナンバ-	752330
学期	前期／1st semester	曜日・時限	火曜4	配当学年	2～3	単位数	2.0
授業のテーマ	歴史・文学・芸術文化などの面からの「神戸」探究						
授業の概要	本学の位置する「神戸」は「モダンな街」として語られるが、150年前の「神戸開港」以前にも長い歴史があり、各時代においてさまざまなドラマを展開してきた。そのような「神戸」の様々な面を、本学の教員と神戸市立博物館の学芸員がそれぞれの専門分野から多角的に論じ、その姿を明らかにする。						
到達目標	本学の所在地「神戸」について、各回で学んだ内容を理解し、多角的にその特徴や魅力を述べるができる。 (知識・理解(2)) 地域社会への貢献に対する感覚を身につけている。(態度・志向性(2))						
授業計画	<p>【総論】</p> <p>1 「神戸研究総論」について(本講義の目的と概要について解説する。)：田附 敏尚</p> <p>【歴史】</p> <p>2 考古学 (六甲山系南麓の弥生時代の遺跡に着目し、高地性集落と銅鐸の謎について解説する。)</p> <p>3 中世史 (今日も残る歴史の足跡をたどりながら、中世の神戸の様子を考察する。)</p> <p>4 近代史 (近代神戸の大きな特徴であり、神戸のイメージを形成するもととなった旧神戸外国人居留地について、その成り立ちから返還までの歴史を居留地に関わった人物や建築物等に注目して紹介する。)</p> <p>5 神戸市立博物館の古地図コレクション (近代に続く現代の神戸の歴史を神戸市立博物館が所蔵する古地図コレクションから読み解く。)</p> <p>【文学】</p> <p>6 古典文学：田中 まき (『伊勢物語』や『源氏物語』で神戸が舞台となっている話を紹介し、平安時代の神戸の姿を考察する。)</p> <p>7 近現代文学：青木 稔弥 (1900年9月9日、夏目漱石は、諏訪山温泉に泊まった。神戸市街を俯瞰できる今は存在しない温泉である。漱石と神戸の関係を考える。)</p> <p>8 方言：田附 敏尚 (神戸周辺で使われていることばの変容について、複数の言語地図等から考察する。)</p> <p>【芸術文化】</p> <p>9 食生活：江 弘毅 (開港以来の神戸の洋食の系譜を概説する。)</p> <p>10 ファッション：徳山 孝子 (“神戸ファッション”イコール“おしゃれ”というイメージを歴史的背景から読み解く。)</p> <p>11 神戸の美術コレクターたち (明治から昭和初期にかけて活躍した神戸ゆかりのコレクター(川崎正蔵、池長孟)の功績と意義を探る。)</p> <p>12 神戸のカミとホトケ古の折りのかたち (近代以降のイメージが強い神戸に息づく古(いにしえ)のカミとホトケの姿を探る。)</p> <p>13 神戸の書と藝術：丸山 果織 (書が海外でも評価されるきっかけとなった、神戸の書家と画家の交流について論じる。)</p> <p>14 神戸のイメージ：西川 純司 (映画やドラマ、漫画に描かれた神戸のまちのイメージを辿る。)</p> <p>15 総括：田附 敏尚</p> <p>※2-5および11、12は神戸市立博物館学芸員による講義</p>						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	<p>授業前：授業計画に従って、次回の授業内容について図書館・インターネット等で下調べをすること。 (学習時間：&lt;2時間&gt;)</p> <p>授業後：授業で取り上げた内容の要点と重要箇所の確認・整理。(学習時間：&lt;2時間&gt;) 授業で取り上げた場所へ足を運び、実感することも望ましい。</p>						
授業方法	<p>講義(オムニバス)</p> <p>【実務経験のある教員等による授業】 神戸市立博物館の学芸員を講師として招き、博物館学芸員としての実務の経験を基にして、多角的かつ実践的な視点から「神戸」に関する研究を指導する。</p>						
評価基準と評価方法	<p>各回の課題・リアクションペーパー65%、総括課題(テスト)35%</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各回で簡単な課題を課し、各回で評価する。</li> <li>総括の回に、内容の復習もかねて簡便なテストを行う。</li> </ul> <p>これらを単位認定者が取りまとめ、総合的に最終評価を下す。</p>						

履修上の注意	<ol style="list-style-type: none"><li>1. 毎回、授業内（授業後の場合もある）で課題・リアクションペーパーを提出する。</li><li>2. 各回の課題・リアクションペーパーは、授業内でmanabaからの提出を求めることがあるので、受講者はスマートフォンを持っているのであれば用意しておいてほしい。 ただし、スマートフォンを使うかは回ごとに異なる可能性があるため、その回の教員の指示に従うこと。</li><li>3. 授業回数の3分の1以上欠席した者については、特段の理由ある場合を除き単位を認めない。</li><li>4. 私語を慎み、居眠りなども極力しないようにすること。 注意しても直らない場合は、退席を命じることがある（退席者は当該の回は欠席と見做す）。</li></ol>
教科書	使用しない。プリントを配布することがある。
参考書	授業時に随時紹介する。

科目区分	社会と人間系列／松蔭とキリスト教系列						
科目名	神戸松蔭とキリスト教						
担当教員	単位認定者：木鎌 耕一郎					科目ナンバ-	Z11010
学期	前期／1st semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	神戸松蔭の歴史とキリスト教の精神を理解する						
授業の概要	この授業では、聖公会キリスト教とはどのようなものか、日本におけるキリスト教伝道および松蔭女子学院の歴史を知ることを通して、本学の建学の精神を学ぶ。それは同時に、本学が発展してきた神戸という土地とキリスト教の関わりから地域社会への貢献について考えることでもある。また、キリスト教と芸術・音楽の関わりを学ぶことから、キリスト教をより幅広く理解し、社会活動について具体的に学ぶことを通してキリスト教の愛の精神について考える。						
到達目標	<p>(1) キリスト教の歴史と聖公会に関する基本的な知識及び神戸松蔭の歴史と建学の精神を説明できる。【知識・理解】</p> <p>(2) キリスト教と芸術の関りの基礎的知識をもとに、キリスト教の西洋文化への影響を述べることができる。【知識・理解】</p> <p>(3) キリスト教の活動とその愛の精神について述べるができる。【知識・理解】</p> <p>(4) いのちと愛の学びから、他者への寛容や共生、地域社会への貢献の感覚を身につける。【態度・志向性】</p>						
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション、神戸松蔭での学び（学位授与の方針）（待田）</p> <p>第2回 キリスト教とは－暮らしの中のキリスト教（木鎌）</p> <p>第3回 神戸松蔭で体験するキリスト教（木鎌）</p> <p>第4回 聖公会とは－成立史と特徴（木鎌）</p> <p>第5回 日本におけるキリスト教伝道（1）－キリシタンの時代（木鎌）</p> <p>第6回 日本におけるキリスト教伝道（2）－明治期以降の伝道（木鎌）</p> <p>第7回 神戸松蔭の歴史とキリスト教（1）－神戸にきた再宣教時代の宣教師たち（木鎌）</p> <p>第8回 神戸松蔭の歴史とキリスト教（2）－松蔭女学校の創立から高等教育への展開（木鎌）</p> <p>第9回 キリスト教と芸術（1）－キリスト教音楽（木鎌）</p> <p>第10回 キリスト教と芸術（2）－キリスト教美術（木鎌）</p> <p>第11回 いのちを考える（1）－聖書における「いのち」（木鎌）</p> <p>第12回 いのちを考える（2）－社会的実践例（木鎌）</p> <p>第13回 キリスト教の活動と愛の精神（1）－聖書における「隣人愛」（木鎌）</p> <p>第14回 キリスト教の活動と愛の精神（2）－マザー・テレサを例に（木鎌）</p> <p>第15回 授業内容のまとめと期末試験（木鎌）</p>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・準備学習：シラバスをもとにあらかじめ書籍、新聞、Webサイト等を通して関連情報を収集する（学修時間：2時間）</li> <li>・授業後の学習：授業で取り上げた内容の要点と重要箇所を確認・整理する（学習時間2時間）</li> </ul>						
授業方法	基本的に講義形式で行う。 必要に応じてディスカッションや意見を求めることがある。						
評価基準と評価方法	<p>授業内での提出物60%、期末試験40%。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業内での提出物：松蔭manabaを用いた小テストやレポート（講義内容についてのコメントの内容・記述的確さを評価する）。</li> <li>・期末試験：到達目標（1）から（4）の到達度の確認。</li> </ul>						
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> <li>・松蔭manabaの「コースニュース」や「掲示板」で重要な連絡・指示を行うので、「リマインダ」をオンにし連絡事項はすぐに確認すること。</li> <li>・期末試験を行うので、各回のノートや配布物は保存しておくこと。</li> </ul>						
教科書	使用しない						
参考書	<p>『聖書 聖書協会共同訳 旧約聖書続編付き 引照・注付き』日本聖書協会      マーク・チャップマン『聖公会物語－英国国教会から世界へー』かんよう出版      五野井 隆史『日本キリスト教史』吉川弘文館      校史編纂委員会編集『蔭女子学院創立120周年記念誌：1892～2012』      神戸松蔭女子学院大学校史編纂委員会編集『神戸松蔭女子学院大学60周年記念誌：1947～2007』      金澤正剛『キリスト教と音楽 ヨーロッパ音楽の源流をたずねて』音楽之友社      吉田実『絵画と御言葉 美術作品に表されたキリスト教信仰』一麦出版社      工藤裕美、シリル・ヴェリヤト『宣教師マザーテレサの生涯－スコピエからカルカッタへ』ぎょうせい</p>						

科目区分	社会と人間系列／松蔭とキリスト教系列						
科目名	神戸松蔭とキリスト教						
担当教員	単位認定者：木鎌 耕一郎					科目ナンバ-	Z11010
学期	前期／1st semester	曜日・時限	水曜1	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	神戸松蔭の歴史とキリスト教の精神を理解する						
授業の概要	この授業では、聖公会キリスト教とはどのようなものか、日本におけるキリスト教伝道および松蔭女子学院の歴史を知ることを通して、本学の建学の精神を学ぶ。それは同時に、本学が発展してきた神戸という土地とキリスト教の関わりから地域社会への貢献について考えることでもある。また、キリスト教と芸術・音楽の関わりを学ぶことから、キリスト教をより幅広く理解し、社会活動について具体的に学ぶことを通してキリスト教の愛の精神について考える。						
到達目標	<p>(1) キリスト教の歴史と聖公会に関する基本的な知識及び神戸松蔭の歴史と建学の精神を説明できる。【知識・理解】</p> <p>(2) キリスト教と芸術の関りの基礎的知識をもとに、キリスト教の西洋文化への影響を述べることができる。【知識・理解】</p> <p>(3) キリスト教の活動とその愛の精神について述べるができる。【知識・理解】</p> <p>(4) いのちと愛の学びから、他者への寛容や共生、地域社会への貢献の感覚を身につける。【態度・志向性】</p>						
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション、神戸松蔭での学び（学位授与の方針）（待田）</p> <p>第2回 キリスト教とは－暮らしの中のキリスト教（木鎌）</p> <p>第3回 神戸松蔭で体験するキリスト教（木鎌）</p> <p>第4回 聖公会とは－成立史と特徴（木鎌）</p> <p>第5回 日本におけるキリスト教伝道（1）－キリシタンの時代（木鎌）</p> <p>第6回 日本におけるキリスト教伝道（2）－明治期以降の伝道（木鎌）</p> <p>第7回 神戸松蔭の歴史とキリスト教（1）－神戸にきた再宣教時代の宣教師たち（木鎌）</p> <p>第8回 神戸松蔭の歴史とキリスト教（2）－松蔭女学校の創立から高等教育への展開（木鎌）</p> <p>第9回 キリスト教と芸術（1）－キリスト教音楽（木鎌）</p> <p>第10回 キリスト教と芸術（2）－キリスト教美術（木鎌）</p> <p>第11回 いのちを考える（1）－聖書における「いのち」（木鎌）</p> <p>第12回 いのちを考える（2）－社会的実践例（木鎌）</p> <p>第13回 キリスト教の活動と愛の精神（1）－聖書における「隣人愛」（木鎌）</p> <p>第14回 キリスト教の活動と愛の精神（2）－マザー・テレサを例に（木鎌）</p> <p>第15回 授業内容のまとめと期末試験（木鎌）</p>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・準備学習：シラバスをもとにあらかじめ書籍、新聞、Webサイト等を通して関連情報を収集する（学修時間：2時間）</li> <li>・授業後の学習：授業で取り上げた内容の要点と重要箇所を確認・整理する（学習時間2時間）</li> </ul>						
授業方法	基本的に講義形式で行う。 必要に応じてディスカッションや意見を求めることがある。						
評価基準と評価方法	<p>授業内での提出物60%、期末試験40%。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業内での提出物：松蔭manabaを用いた小テストやレポート（講義内容についてのコメントの内容・記述的確さを評価する）。</li> <li>・期末試験：到達目標（1）から（4）の到達度の確認。</li> </ul>						
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> <li>・松蔭manabaの「コースニュース」や「掲示板」で重要な連絡・指示を行うので、「リマインダ」をオンにし連絡事項はすぐに確認すること。</li> <li>・試験を行うので、各回のノートや配布物は保存しておくこと。</li> </ul>						
教科書	使用しない						
参考書	<p>『聖書 聖書協会共同訳 旧約聖書続編付き 引照・注付き』日本聖書協会      マーク・チャップマン『聖公会物語－英国国教会から世界へー』かんよう出版      五野井 隆史『日本キリスト教史』吉川弘文館      校史編纂委員会編集『蔭女子学院創立120周年記念誌：1892～2012』      神戸松蔭女子学院大学校史編纂委員会編集『神戸松蔭女子学院大学60周年記念誌：1947～2007』      金澤正剛『キリスト教と音楽 ヨーロッパ音楽の源流をたずねて』音楽之友社      吉田実『絵画と御言葉 美術作品に表されたキリスト教信仰』一麦出版社      工藤裕美、シリル・ヴェリヤト『宣教師マザーテレサの生涯－スコピエからカルカッタへ』ぎょうせい</p>						



科目区分	社会と人間系列／松蔭とキリスト教系列						
科目名	神戸松蔭とキリスト教						
担当教員	単位認定者：木鎌 耕一郎					科目ナンバ-	Z11010
学期	前期／1st semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	神戸松蔭の歴史とキリスト教の精神を理解する						
授業の概要	この授業では、聖公会キリスト教とはどのようなものか、日本におけるキリスト教伝道および松蔭女子学院の歴史を知ることを通して、本学の建学の精神を学ぶ。それは同時に、本学が発展してきた神戸という土地とキリスト教の関わりから地域社会への貢献について考えることでもある。また、キリスト教と芸術・音楽の関わりを学ぶことから、キリスト教をより幅広く理解し、社会活動について具体的に学ぶことを通してキリスト教の愛の精神について考える。						
到達目標	<p>(1) キリスト教の歴史と聖公会に関する基本的な知識及び神戸松蔭の歴史と建学の精神を説明できる。【知識・理解】</p> <p>(2) キリスト教と芸術の関りの基礎的知識をもとに、キリスト教の西洋文化への影響を述べることができる。【知識・理解】</p> <p>(3) キリスト教の活動とその愛の精神について述べるができる。【知識・理解】</p> <p>(4) いのちと愛の学びから、他者への寛容や共生、地域社会への貢献の感覚を身につける。【態度・志向性】</p>						
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション、神戸松蔭での学び（学位授与の方針）（待田）</p> <p>第2回 キリスト教とは－暮らしの中のキリスト教（木鎌）</p> <p>第3回 神戸松蔭で体験するキリスト教（木鎌）</p> <p>第4回 聖公会とは－成立史と特徴（木鎌）</p> <p>第5回 日本におけるキリスト教伝道（1）－キリシタンの時代（木鎌）</p> <p>第6回 日本におけるキリスト教伝道（2）－明治期以降の伝道（木鎌）</p> <p>第7回 神戸松蔭の歴史とキリスト教（1）－神戸にきた再宣教時代の宣教師たち（木鎌）</p> <p>第8回 神戸松蔭の歴史とキリスト教（2）－松蔭女学校の創立から高等教育への展開（木鎌）</p> <p>第9回 キリスト教と芸術（1）－キリスト教音楽（木鎌）</p> <p>第10回 キリスト教と芸術（2）－キリスト教美術（木鎌）</p> <p>第11回 いのちを考える（1）－聖書における「いのち」（木鎌）</p> <p>第12回 いのちを考える（2）－社会的実践例（木鎌）</p> <p>第13回 キリスト教の活動と愛の精神（1）－聖書における「隣人愛」（木鎌）</p> <p>第14回 キリスト教の活動と愛の精神（2）－マザー・テレサを例に（木鎌）</p> <p>第15回 授業内容のまとめと期末試験（木鎌）</p>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・準備学習：シラバスをもとにあらかじめ書籍、新聞、Webサイト等を通して関連情報を収集する（学修時間：2時間）</li> <li>・授業後の学習：授業で取り上げた内容の要点と重要箇所を確認・整理する（学習時間2時間）</li> </ul>						
授業方法	基本的に講義形式で行う。 必要に応じてディスカッションや意見を求めることがある。						
評価基準と評価方法	<p>授業内での提出物60%、期末試験40%。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業内での提出物：松蔭manabaを用いた小テストやレポート（講義内容についてのコメントの内容・記述的確さを評価する）。</li> <li>・期末試験：到達目標（1）から（4）の到達度の確認。</li> </ul>						
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> <li>・松蔭manabaの「コースニュース」や「掲示板」で重要な連絡・指示を行うので、「リマインダ」をオンにし連絡事項はすぐに確認すること。</li> <li>・試験を行うので、各回のノートや配布物は保存しておくこと。</li> </ul>						
教科書	使用しない						
参考書	<p>『聖書 聖書協会共同訳 旧約聖書続編付き 引照・注付き』日本聖書協会      マーク・チャップマン『聖公会物語－英国国教会から世界へー』かんよう出版      五野井 隆史『日本キリスト教史』吉川弘文館      校史編纂委員会編集『蔭女子学院創立120周年記念誌：1892～2012』      神戸松蔭女子学院大学校史編纂委員会編集『神戸松蔭女子学院大学60周年記念誌：1947～2007』      金澤正剛『キリスト教と音楽 ヨーロッパ音楽の源流をたずねて』音楽之友社      吉田実『絵画と御言葉 美術作品に表されたキリスト教信仰』一麦出版社      工藤裕美、シリル・ヴェリヤト『宣教師マザーテレサの生涯－スコピエからカルカッタへ』ぎょうせい</p>						

科目区分	社会と人間系列／松蔭とキリスト教系列						
科目名	神戸松蔭とキリスト教						
担当教員	単位認定者：待田昌二					科目ナンバ-	Z11010
学期	前期／1st semester	曜日・時限	木曜1	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	神戸松蔭の歴史とキリスト教の精神を理解する						
授業の概要	この授業では、聖公会キリスト教とはどのようなものか、日本におけるキリスト教伝道および松蔭女子学院の歴史を知ることを通して、本学の建学の精神を学ぶ。それは同時に、本学が発展してきた神戸という土地とキリスト教の関わりから地域社会への貢献について考えることでもある。また、キリスト教と芸術・音楽の関わりを学ぶことから、キリスト教をより幅広く理解し、社会活動について具体的に学ぶことを通してキリスト教の愛の精神について考える。						
到達目標	<p>(1) キリスト教の歴史と聖公会に関する基本的な知識及び神戸松蔭の歴史と建学の精神を説明できる。【知識・理解】</p> <p>(2) キリスト教と芸術の関りの基礎的知識をもとに、キリスト教の西洋文化への影響を述べるができる。【知識・理解】</p> <p>(3) キリスト教の活動とその愛の精神について述べるができる。【知識・理解】</p> <p>(4) いのちと愛の学びから、他者への寛容や共生、地域社会への貢献の感覚を身につける。【態度・志向性】</p>						
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション、神戸松蔭での学び（学位授与の方針）（待田）</p> <p>第2回 キリスト教とは－暮らしの中のキリスト教（木鎌）</p> <p>第3回 神戸松蔭で体験するキリスト教（木鎌）</p> <p>第4回 聖公会とは－成立史と特徴（木鎌）</p> <p>第5回 日本におけるキリスト教伝道（1）－キリシタンの時代（木鎌）</p> <p>第6回 日本におけるキリスト教伝道（2）－明治期以降の伝道（木鎌）</p> <p>第7回 神戸松蔭の歴史とキリスト教（1）－神戸にきた再宣教時代の宣教師たち（木鎌）</p> <p>第8回 神戸松蔭の歴史とキリスト教（2）－松蔭女学校の創立から高等教育への展開（木鎌）</p> <p>第9回 キリスト教と芸術（1）－キリスト教音楽（木鎌）</p> <p>第10回 キリスト教と芸術（2）－キリスト教美術（木鎌）</p> <p>第11回 いのちを考える（1）－聖書における「いのち」（木鎌）</p> <p>第12回 いのちを考える（2）－社会的実践例（木鎌）</p> <p>第13回 キリスト教の活動と愛の精神（1）－聖書における「隣人愛」（木鎌）</p> <p>第14回 キリスト教の活動と愛の精神（2）－マザー・テレサを例に（木鎌）</p> <p>第15回 授業内容のまとめと期末試験（待田）</p>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・準備学習：シラバスをもとにあらかじめ書籍、新聞、Webサイト等を通して関連情報を収集する（学修時間：2時間）</li> <li>・授業後の学習：授業で取り上げた内容の要点と重要箇所を確認・整理する（学習時間2時間）</li> </ul>						
授業方法	基本的に講義形式で行う。 必要に応じてディスカッションや意見を求めることがある。						
評価基準と評価方法	<p>授業内での提出物60%、期末試験40%。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業内での提出物：松蔭manabaを用いた小テストやレポート（講義内容についてのコメントの内容・記述的確さを評価する）。</li> <li>・期末試験：到達目標（1）から（4）の到達度の確認。</li> </ul>						
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> <li>・松蔭manabaの「コースニュース」や「掲示板」で重要な連絡・指示を行うので、「リマインダ」をオンにし連絡事項はすぐに確認すること。</li> <li>・試験を行うので、各回のノートや配布物は保存しておくこと。</li> </ul>						
教科書	使用しない						
参考書	<p>『聖書 聖書協会共同訳 旧約聖書続編付き 引照・注付き』日本聖書協会      マーク・チャップマン『聖公会物語－英国国教会から世界へー』かんよう出版      五野井 隆史『日本キリスト教史』吉川弘文館      校史編纂委員会編集『蔭女子学院創立120周年記念誌：1892～2012』      神戸松蔭女子学院大学校史編纂委員会編集『神戸松蔭女子学院大学60周年記念誌：1947～2007』      金澤正剛『キリスト教と音楽 ヨーロッパ音楽の源流をたずねて』音楽之友社      吉田実『絵画と御言葉 美術作品に表されたキリスト教信仰』一麦出版社      工藤裕美、シリル・ヴェリヤト『宣教師マザーテレサの生涯－スコピエからカルカッタへ』ぎょうせい</p>						

科目区分	社会と人間系列／松蔭とキリスト教系列						
科目名	神戸松蔭とキリスト教						
担当教員	単位認定者：待田昌二					科目ナンバ-	Z11010
学期	前期／1st semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	神戸松蔭の歴史とキリスト教の精神を理解する						
授業の概要	この授業では、聖公会キリスト教とはどのようなものか、日本におけるキリスト教伝道および松蔭女子学院の歴史を知ることを通して、本学の建学の精神を学ぶ。それは同時に、本学が発展してきた神戸という土地とキリスト教の関わりから地域社会への貢献について考えることでもある。また、キリスト教と芸術・音楽の関わりを学ぶことから、キリスト教をより幅広く理解し、社会活動について具体的に学ぶことを通してキリスト教の愛の精神について考える。						
到達目標	<p>(1) キリスト教の歴史と聖公会に関する基本的な知識及び神戸松蔭の歴史と建学の精神を説明できる。【知識・理解】</p> <p>(2) キリスト教と芸術の関りの基礎的知識をもとに、キリスト教の西洋文化への影響を述べることができる。【知識・理解】</p> <p>(3) キリスト教の活動とその愛の精神について述べるができる。【知識・理解】</p> <p>(4) いのちと愛の学びから、他者への寛容や共生、地域社会への貢献の感覚を身につける。【態度・志向性】</p>						
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション、神戸松蔭での学び（学位授与の方針）（待田）</p> <p>第2回 キリスト教とは－暮らしの中のキリスト教（木鎌）</p> <p>第3回 神戸松蔭で体験するキリスト教（木鎌）</p> <p>第4回 聖公会とは－成立史と特徴（木鎌）</p> <p>第5回 日本におけるキリスト教伝道（1）－キリシタンの時代（木鎌）</p> <p>第6回 日本におけるキリスト教伝道（2）－明治期以降の伝道（木鎌）</p> <p>第7回 神戸松蔭の歴史とキリスト教（1）－神戸にきた再宣教時代の宣教師たち（木鎌）</p> <p>第8回 神戸松蔭の歴史とキリスト教（2）－松蔭女学校の創立から高等教育への展開（木鎌）</p> <p>第9回 キリスト教と芸術（1）－キリスト教音楽（木鎌）</p> <p>第10回 キリスト教と芸術（2）－キリスト教美術（木鎌）</p> <p>第11回 いのちを考える（1）－聖書における「いのち」（木鎌）</p> <p>第12回 いのちを考える（2）－社会的実践例（木鎌）</p> <p>第13回 キリスト教の活動と愛の精神（1）－聖書における「隣人愛」（木鎌）</p> <p>第14回 キリスト教の活動と愛の精神（2）－マザー・テレサを例に（木鎌）</p> <p>第15回 授業内容のまとめと期末試験（待田）</p>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・準備学習：シラバスをもとにあらかじめ書籍、新聞、Webサイト等を通して関連情報を収集する（学修時間：2時間）</li> <li>・授業後の学習：授業で取り上げた内容の要点と重要箇所を確認・整理する（学習時間2時間）</li> </ul>						
授業方法	基本的に講義形式で行う。 必要に応じてディスカッションや意見を求めることがある。						
評価基準と評価方法	<p>授業内での提出物60%、期末試験40%。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業内での提出物：松蔭manabaを用いた小テストやレポート（講義内容についてのコメントの内容・記述的確さを評価する）。</li> <li>・期末試験：到達目標（1）から（4）の到達度の確認。</li> </ul>						
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> <li>・松蔭manabaの「コースニュース」や「掲示板」で重要な連絡・指示を行うので、「リマインダ」をオンにし連絡事項はすぐに確認すること。</li> <li>・試験を行うので、各回のノートや配布物は保存しておくこと。</li> </ul>						
教科書	使用しない						
参考書	<p>『聖書 聖書協会共同訳 旧約聖書続編付き 引照・注付き』日本聖書協会      マーク・チャップマン『聖公会物語－英国国教会から世界へー』かんよう出版      五野井 隆史『日本キリスト教史』吉川弘文館      校史編纂委員会編集『蔭女子学院創立120周年記念誌：1892～2012』      神戸松蔭女子学院大学校史編纂委員会編集『神戸松蔭女子学院大学60周年記念誌：1947～2007』      金澤正剛『キリスト教と音楽 ヨーロッパ音楽の源流をたずねて』音楽之友社      吉田実『絵画と御言葉 美術作品に表されたキリスト教信仰』一麦出版社      工藤裕美、シリル・ヴェリヤト『宣教師マザーテレサの生涯－スコピエからカルカッタへ』ぎょうせい</p>						

科目区分	社会と人間系列／松蔭とキリスト教系列						
科目名	社会福祉概論						
担当教員	中村 和子					科目ナンバ-	Z11210
学期	前期／1st semester	曜日・時限	月曜4	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	社会福祉における「よりよい生活の確立」と「快い生活」を考える。						
授業の概要	身近な生活のテーマについて、社会福祉の幾つかの基本的な制度や知識を講義形式で行う。毎回のテーマを新聞スクラップ記事など視覚教材や学習シート内容から学ぶ。授業で学修した内容について、授業中または授業外の学修として個別のワークを使って深く考える、またはグループディスカッションを行い、他の受講生と共有することもある。						
到達目標	<p>(1) 講義で学んだ社会福祉の制度と知識を通して、社会や社会福祉の現状を知り自分自身や周囲の人の生活に応用でき、今後も社会と社会福祉の制度に関心を持つきっかけになることができる【知識・理解】</p> <p>(2) 社会福祉の領域で「よりよい生活の確立」、「快い生活」について考え、その考えや知識を他者に表現できる【知識・理解】</p> <p>(3) 授業テーマに関する新聞スクラップ記事を活用し、社会の問題に自ら疑問を持ち、社会福祉の視点で深く考え、それらを調べ、「よりよい生活」を送るためにその記事の内容についての問題や課題、その対策や予防について考えることができる。そして、「快い生活」とは何かを具体的に述べるのが文章とプレゼンテーションによって他者に論じることができる。また、授業中のディスカッションでも他者の考えや意見を尊重しながら議論もできる【態度・志向性】</p>						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>履修上の注意事項（松蔭manabaから提示予定）、社会福祉における「よりよい生活」、「快い生活」とは</li> <li>戦後の社会福祉の歴史－第二次世界大戦以降</li> <li>ボランティアとは（社会福祉の領域）</li> <li>家庭・家族と福祉1－結婚の動向、高齢出産、性と生を考える</li> <li>家庭・家族と福祉2－家族を考える、男性の産休、社会的養護－里親制度</li> <li>家庭・家族と福祉3－社会的養護－特別養子縁組</li> <li>雇用と福祉－働き方、高齢者雇用</li> <li>社会保障1－雇用保険、公的医療保険</li> <li>社会保障2－介護と公的介護保険</li> <li>高齢者と福祉1－高齢者の生活、孤独死</li> <li>高齢者と福祉2－公的年金（社会保障）</li> <li>事前学習（新聞スクラップ記事を活用）－プレゼンテーション（受講生数によってはグループ内）</li> <li>高齢者と福祉3－公的年金の歴史</li> <li>障がい者と福祉1－依存症と自助グループ</li> <li>障がい者と福祉2－障がい者の雇用と法定雇用率、ジョブコーチ制度</li> <li>障がい者と福祉3－身体障害者補助犬法</li> <li>まとめテスト、ワーク（場合によっては、ディスカッション）</li> </ol>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	<p>(1) 授業内容のワーク：授業中に学んだことについて幾つかの問いに具体的に解答を述べて提出。6回（学習時間各90分で合計540分）</p> <p>(2) 事前・事後学習：新聞スクラップ記事を活用し、記事に書かれている内容に疑問を持ち、深く考え、深く考えたことを調べ、問題や課題の対策、予防について制度や自分自身ができることを考え、具体的に述べる。授業でプレゼンテーションができるように準備する。事後学習として他の受講生から学べたこと、プレゼンテーションを終えた後の質問に解答し提出するための学修。事前・事後学習の提出は松蔭manabaから。（合計 学習時間900分）</p> <p>(3) まとめテストのための復習：毎回の授業後に「学習シート」の知識の予習復習。（学習時間毎回90分で合計1350分）</p> <p>(1)～(3) 合計 2790分</p>						
授業方法	<p>(1) 知識習得のための講義型形式。</p> <p>(2) 自分の考えを論じる、分かち合いの中で他者の考えから更に深く考え学び、ディスカッション、プレゼンテーションのアクティブラーニング型形式。</p> <p>(3) 視覚教材学習（DVD、著書からの紹介、事例、新聞スクラップ記事、写真、資料）</p>						
評価基準と評価方法	<p>まとめテスト 40%：生活に応用できるように授業内容の知識習得、積極的に受講して理解度を高めたか、そして授業外の学修をしていたかの確認のために知識中心の設問を中心として評価する。到達目標 (1) に関する到達度の確認。</p> <p>授業内での提出物 60%：授業中のディスカッション、ワークシートによってどのような事が学べたのか、そこから何を考えたのか具体的に自分の言葉で述べているかを評価する（個別・グループとして）。到達目標 (1) と (2) に関する到達度の確認。事前・事後学習は、授業に関するテーマについて新聞スクラップ記事を読み、現状の社会でどのような事が起こっているか理解し、疑問を持ち、深く考えてその疑問に対して信頼性の高い出典先から調べることができているか、自分の言葉で自分の考えを具体的に解答できているか、そして読み原稿をほぼ見ずに自分の言葉で他の受講生にプレゼンテーションができているか、提出期限が守られているかを評価する。到達目標 (2) と (3) に関する到達度の確認。事前・事後学習のフィードバックとコメントはmanabaから行う。</p>						
履修上の注意	<ol style="list-style-type: none"> <li>毎回の授業が視覚教材を使って学び、深く考え、時にはグループディスカッションもするため、10回以上の出席がないと受験資格（最終成績は不可）を失う（15分以上の遅刻、早退は欠席扱いとする。複数回の15分以内の遅刻・早退の場合も注意喚起をすることもある）。但し、感染症の場合など例外については、最初の授業、manabaに提示予定の「履修上の注意事項」で確認すること。</li> <li>積極的に授業と提出物に取り組むことを望む。提出物は「提出した」、ディスカッションに出席して行った</li> </ol>						

履修上の注意	、参加した、授業を受けただけでは評価基準の高得点を得られない。 3. 提出物は、期限までに提出することが必須。遅れての提出は減点対象。場合によっては、受理しない（詳細は、第1回目のmanabaから提示予定の「履修上の注意事項」を必読し、理解すること） 4. 最終成績に関する問い合わせには一切応じられません。 5. 携帯機器（スマートフォンを含む）は、授業中に指示があったときだけ利用し、それ以外は授業に集中するためにカバンの中に入れて受講をお願いします。
教科書	使用しない。
参考書	(1) 「引退犬命の物語」 沢田俊子、学研 (2) 「時が止まった部屋」 小島美羽、原書房 (3) 「ばあちゃん、介護施設を間違えたらボケるで！」 丸尾和宏、丸尾多重子、ブックマン社 * 上記の著書は、購入しなくてもよい。授業中に紹介する予定。

科目区分	社会と人間系列／松蔭とキリスト教系列						
科目名	新約聖書を学ぶ						
担当教員	木鎌 耕一郎					科目ナンバ-	Z12040
学期	前期／1st semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	2～3	単位数	2.0
授業のテーマ	新約聖書を読む						
授業の概要	「新約聖書」は、27冊の書物を取りまとめたものです。どの書物も、イエスによって証しされた「福音」が共通の基盤になっていますが、各書物の著者は、様々な地域や民族の出身者であり、それぞれが独自の思想を持っています。また、私たちとは異なる文化が背景にあるため、その内容を理解するためには乗り越えるべき高いハードルがあります。そこで本授業では、新約聖書を少しでも身近に感じ、その思想を生かすことができるように聖書本文とその背景についての学びを深めていきます。						
到達目標	<p>(1) 新約聖書の四福音書それぞれの特徴の背景となっている歴史と成立の事情を理解できるようにする。(知識・理解)</p> <p>(2) 使徒言行録とパウロ等の書簡の特徴を理解し、説明できるようにする。(知識・理解)</p> <p>(3) 新約聖書の思想を踏まえて、現代社会の諸問題について自分の意見を持てるようにする。(汎用的技能)(態度・志向性)</p>						
授業計画	<p>第1回 ガイダンス(授業の目標と概要、評価方法についての説明)</p> <p>第2回 聖書の構造(旧約聖書から新約聖書まで)</p> <p>第3回 新約聖書諸文書の成立経緯、共観福音書</p> <p>第4回 聖書翻訳の歴史</p> <p>第5回 日本語聖書の成立</p> <p>第6回 マルコ福音書の成立と特徴</p> <p>第7回 マタイ福音書の成立と特徴— 第1回まとめテスト</p> <p>第8回 ルカ福音書の成立と特徴</p> <p>第9回 ヨハネ福音書の成立と特徴</p> <p>第10回 使徒言行録の成立と特徴</p> <p>第11回 書簡の成立と特徴</p> <p>第12回 パウロ書簡に見る隣人愛思想の展開</p> <p>第13回 パウロ書簡に見るユダヤ教的遺産</p> <p>第14回 新約聖書と初期キリスト教共同体の形成</p> <p>第15回 全体のとまとめと展望 — 第2回まとめテスト</p>						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	<p>授業前準備学習: 次回の新約聖書の該当箇所を熟読し、疑問に思うことを自分で調べ、それでも理解できない点について書き留めておく。(学習時間: 2時間)</p> <p>授業後学習: 授業内で読んだ新約聖書の箇所と講義内容を再読し、身近な事柄や現代の社会問題に応用できる点を自ら考え、得られた知識を書き留める。(学修時間: 2時間)</p>						
授業方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的に講義形式で行うが、必要に応じてディスカッションや意見を求めることがある。</li> <li>・授業初めに聖書の輪読の時間を設ける(受講者には輪読形式で「音読」をしてもらう。そのため遅刻は減点の対象とし、正当な理由がないかぎり20分以上の遅刻者は入室を認めない。</li> </ul>						
評価基準と評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎回の授業で、manaba小テストや小レポート(A:3点 B:2点 C:1点で評価をする)を提出してもらう: 成績全体の50%</li> <li>・2回のまとめテスト: 成績全体の50%</li> </ul>						
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> <li>・テキスト(聖書)を必ず持参すること。</li> <li>・授業初めの聖書の輪読を重視するので、遅刻には極力注意すること。</li> <li>・5回以上の欠席者は不合格とする。</li> </ul>						
教科書	<p>聖書</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・聖書を持っている場合には、初回授業に聖書を持参してください。翻訳によっては授業で使えないものがあります。</li> <li>・これから購入する場合は、日本聖書協会の最新の日本語訳聖書『聖書協会共同訳 聖書』、もしくは広く使われている日本聖書協会『新共同訳 聖書』を勧めます。</li> </ul> <p>「新共同訳聖書 旧新約聖書 旧訳続編付」 ISBN:9784820212058</p>						
参考書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本聖書協会『聖書スタディ版 新共同訳 わかりやすい解説付き』</li> <li>・辻学『隣人愛のはじまり 聖書学的考察』信教出版社</li> </ul> <p>その他、適宜、授業中に紹介します。</p>						

科目区分	社会と人間系列／松蔭とキリスト教系列						
科目名	ジェンダー論演習						
担当教員	松並 知子					科目ナンバ-	Z11140
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	金曜2	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	主にメディアの中にある具体的な事例を通して、ジェンダーの理論や問題を分析する。その際、ディスカッションやレポート作成などを行うことにより、自分自身の中のジェンダー意識を再考する。						
授業の概要	女性が被害に合うことが多いデートDVや女性に多い依存症、また母娘問題などの身近な問題を、漫画やエッセイを通して学習する。また、固定観念やイメージがいかにジェンダー意識に影響を与えているのかを考察する。さらに、ジェンダーに関する問題を自ら調べ意見を述べることによって、理解を深め、ディスカッションなどを通して、多様な意見や価値観に触れることで、考えを深める。						
到達目標	(1) ジェンダーやセクシュアリティに関する概念や問題と日本社会の現状を理解している。【知識・理解】 (2) ジェンダーに関する問題や社会状況などを調べて発表することができる。【汎用的技能】 (3) 授業で扱った事柄を身近な問題として捉え、問題の解決に向けて真剣に考え、行動することができる。【態度・志向性】						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション：授業内容や授業計画、授業方法</li> <li>2. 漫画『だめんず・うぉ～か～』に見るジェンダー (1) 自己愛とDVの関連</li> <li>3. 漫画『だめんず・うぉ～か～』に見るジェンダー (2) 女性性・男性性とDV</li> <li>4. 漫画『だめんず・うぉ～か～』に見るジェンダー (3) 恋愛依存症とデートDV</li> <li>5. 視聴覚教材を見て、デートDVについて考える</li> <li>6. 作家、中村うさぎに見るジェンダー (1) 中村うさぎが抱える心理的問題</li> <li>7. 作家、中村うさぎに見るジェンダー (2) 依存症とその要因</li> <li>8. 依存症とその生起要因について考える</li> <li>9. プリンセス・ストーリーに見るジェンダー：ディズニー映画「シンデレラ」視聴</li> <li>10. プリンセス・ストーリーに見るジェンダー問題について考える</li> <li>11. 漫画『イグアナの娘』に見るジェンダー (1) 漫画に見る母娘関係の分析</li> <li>12. 漫画『イグアナの娘』に見るジェンダー (2) 母と娘の間に生じる葛藤</li> <li>13. 漫画『イグアナの娘』に見るジェンダー (3) 母を支える娘たち</li> <li>14. ジェンダーやセクシュアリティの問題について調べる</li> <li>15. レポート作成と発表</li> </ol>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	ジェンダーをキーワードに日頃からニュースなどに興味を持ち、情報を得ていること。また参考文献などを使って下調べをしておくこと（学習時間：2時間）。授業中に配布した資料やプリントを使って復習を行うこと。また、授業内で紹介した参考文献などを活用して理解を深めること（学習時間：2時間）。						
授業方法	質疑応答やレポート作成、視聴覚教材の視聴などの課題をとり入れることにより、自分自身で考え、表現する機会を持つ。グループ・ディスカッションや心理テストなども行う。また、毎回、授業の後にレポートを提出してもらい、評価の対象とする。さらに、発言した場合は平常点が加点される。双方向型の授業なので、積極的な発言が奨励される。						
評価基準と評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業の後に提出するレポート 60%</li> <li>・授業への積極的参加態度（主に発言） 40%</li> </ul>						
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業初回に授業内容と授業計画を説明するので、できる限り、出席すること。</li> <li>・私語は厳禁、携帯電話は鞆にしまうなど、ルールを守る人に限る。</li> </ul>						
教科書	なし						
参考書	「ジェンダーの心理学ハンドブック」青野篤子・赤澤淳子・松並知子、ナカニシヤ出版、2008 「アクティブラーニングで学ぶジェンダー～現代を生きるための12の実践」青野篤子、ミネルヴァ書房、2016						

科目区分	社会と人間系列／松蔭とキリスト教系列						
科目名	ジェンダー論入門／女性論I						
担当教員	松並 知子					科目ナンバ-	Z11130
学期	前期／1st semester	曜日・時限	金曜4	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	ジェンダーに関する理論や概念を理解し、日常生活におけるジェンダー問題を考察する。						
授業の概要	ジェンダーやセクシュアリティに関する理論や問題について概説し、基本的な知識を身につける。また、日本社会における女性を取り巻く環境や問題について考察し、日常生活の中にジェンダーがどのように浸透しているかを見抜く視点を共有する。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ジェンダーやセクシュアリティに関する概念や問題を理解し知識を身につけることができる【知識・理解】</li> <li>2. 日本社会の現状を理解し、自分の問題として、考えることができる【知識・理解】</li> <li>3. 人々の心の中にある固定観念や偏見についても考察することができる【態度・志向性】</li> <li>4. ジェンダー問題について説明したり、ディスカッションすることができる【汎用的技能】</li> </ol>						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション：授業内容と授業計画、ジェンダーとは？</li> <li>2. 女とは？男とは？セクシュアリティとは？</li> <li>3. 女らしさ、男らしさはどのようにつくられるか？（1）家庭の中のジェンダー</li> <li>4. 女らしさ、男らしさはどのようにつくられるか？（2）学校の中のジェンダー</li> <li>5. 日本社会におけるジェンダー問題（1）世界の中の日本</li> <li>6. 日本社会におけるジェンダー問題（2）女性が抱える問題</li> <li>7. 性行動と性意識（1）現代の若者の実態</li> <li>8. 性行動と性意識（2）ジェンダー差</li> <li>9. SOGI：ジェンダー・アイデンティティとセクシュアル・オリエンテーション <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 性自認</li> </ol> </li> <li>10. SOGI：ジェンダー・アイデンティティとセクシュアル・オリエンテーション <ol style="list-style-type: none"> <li>(2)、性別違和</li> </ol> </li> <li>11. SOGI：ジェンダー・アイデンティティとセクシュアル・オリエンテーション <ol style="list-style-type: none"> <li>(3) 性的指向</li> </ol> </li> <li>12. ジェンダーにまつわる病（1）摂食障害</li> <li>13. ジェンダーにまつわる病（2）うつ：自分らしさと女らしさの葛藤</li> <li>14. 日常生活におけるカウンセリング的対応</li> <li>15. まとめと筆記試験</li> </ol>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	ジェンダーをキーワードに日頃からニュースなどに興味を持ち、情報を得ていること。また参考文献などを使って下調べをしておくこと（学習時間：2時間）。授業中に配布した資料やプリントを使って復習を行うこと。また、授業内で紹介した参考文献などを活用して理解を深めること（学習時間：2時間）。						
授業方法	基本的に講義形式で進めるが、視聴覚教材や心理テスト、グループ・ディスカッションなどの課題をとり入れることにより、自分自身で考える機会を持つ。時折、授業の後にミニレポートを提出してもらう。課題に対し、きちんと回答している場合は平常点が加点される。また、課題などについて意見を求めることも多いので、積極的な受講態度が望まれる。						
評価基準と評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業態度・参加度（ミニレポート、発言、ディスカッション参加態度）40%</li> <li>・最終授業で実施する筆記試験60%</li> </ul>						
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業初回到授業内容と授業計画を説明するので、できる限り、出席すること。</li> <li>・私語は厳禁、携帯電話は鞆にしまうなど、ルールを守れる人に限る。</li> </ul>						
教科書	なし						
参考書	「ジェンダーの心理学ハンドブック」青野篤子・赤澤淳子・松並知子、ナカニシヤ出版、2008 「アクティブラーニングで学ぶジェンダー～現代を生きるための12の実践」青野篤子、ミネルヴァ書房、2016						



科目区分	社会と人間系列／松蔭とキリスト教系列						
科目名	女性と法						
担当教員	佐藤 祥徳					科目ナンバ-	Z11220
学期	前期／1st semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	現代社会を生きる女性として知っておくことが望ましい法制度を概観する。						
授業の概要	現代社会では、民事事件、刑事事件を問わず、女性が当事者となる紛争やトラブルが日夜発生している。そして、法治国家である日本においては、女性としての権利を実現し、法的利益を守ることを目的とした法律が多数存在する。本授業では、女性が社会生活を送るうえで遭遇し得る様々な場面を取り上げ、これらに関するわが国の法制度を紹介し、様々な法律に対する理解を深めてもらうとともに、社会で活躍する女性になるための「心得」を提供することを目指す。						
到達目標	(1) 社会生活上、女性が当事者となる紛争やトラブルにどのようなものがあるかを理解する【知識・理解】 (2) 上記(1)に関連する法制度(法律)の内容を理解し、他者にわかりやすく説明することができる【汎用的技能】 (3) 上記(1)及び(2)を前提に、これらの紛争やトラブルを未然に回避するためにはどのように行動すればよいかを適切に判断することができる【態度・志向性】						
授業計画	第1回 ガイダンス・法律を学ぶにあたって 第2回 インターネットをめぐる法律問題①(SNS利用時のトラブル) 第3回 インターネットをめぐる法律問題②(著作権侵害、海賊版コンテンツ等) 第4回 男女関係をめぐる法律問題(交際相手からの暴力、ストーカー行為、リベンジポルノ等) 第5回 女性と犯罪被害①(いじめ、性犯罪、盗撮・痴漢、援助交際等) 第6回 女性と犯罪被害②(警察捜査と刑事裁判に関する基礎知識、不法行為責任と民事裁判に関する基礎知識) 第7回 講義前半のまとめ・中間試験 第8回 職場における法律問題①(労働者の諸権利) 第9回 職場における法律問題②(パワーハラスメント、セクシャルハラスメント等) 第10回 女性と社会経済活動(契約責任と会社法制に関する基礎知識) 第11回 女性と貧困(母子家庭を取り巻く諸問題、多重債務、消費者被害) 第12回 家族をめぐる法律問題①(結婚と離婚、不貞行為、配偶者暴力(DV)等) 第13回 家族をめぐる法律問題②(親権、面会交流、養育費、認知等) 第14回 家族をめぐる法律問題③(遺言、相続) 第15回 講義後半のまとめ・期末試験						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	授業前準備学習:教科書の指定された範囲を予習し、各回授業で取り上げる法律やそれが適用される場面についてのイメージを掴み、わからないことや疑問点があれば拾い出しておく。<2時間> 授業後学習:授業で取り上げた内容(紛争・トラブルの実態、関連する法律の趣旨・目的、内容等)を復習し、理解を深める。また、新聞記事、テレビ報道、スマートフォンのニュースアプリ等で関連するトピックを見つけた場合は、積極的に情報を収集し、多様な意見に触れるよう努める。<2時間>						
授業方法	講義形式						
評価基準と評価方法	中間試験40%、期末試験60% 中間試験:授業で取り上げた法制度に対する理解度(到達目標(1)(2))及び運用力(到達目標(3))を評価する。 期末試験:中間試験と同様の評価方法によるほか、女性が直面する具体的な社会問題に関して、問題の所在を見出す力(到達目標(1))及び法制度を念頭に置いた具体的な解決方法を考察する力(到達目標(2)(3))を評価する。 課題に対するフィードバックの方法:レポート及び期末試験の採点結果を松蔭manabaで講評する。						
履修上の注意	法律に関する基礎知識の有無は問わない。 平易な講義に努めるので、安心して履修してほしい。						
教科書	『おとめ六法』上谷さくら・岸本学著、(株)KADOKAWA、ISBN978-4-04-604779-3						
参考書	なし						

科目区分	社会と人間系列／松蔭とキリスト教系列						
科目名	女性と法						
担当教員	佐藤 祥徳					科目ナンバ-	Z11220
学期	前期／1st semester	曜日・時限	木曜4	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	現代社会を生きる女性として知っておくことが望ましい法制度を概観する。						
授業の概要	現代社会では、民事事件、刑事事件を問わず、女性が当事者となる紛争やトラブルが日夜発生している。そして、法治国家である日本においては、女性としての権利を実現し、法的利益を守ることを目的とした法律が多数存在する。本授業では、女性が社会生活を送るうえで遭遇し得る様々な場面を取り上げ、これらに関するわが国の法制度を紹介し、様々な法律に対する理解を深めてもらうとともに、社会で活躍する女性になるための「心得」を提供することを目指す。						
到達目標	(1) 社会生活上、女性が当事者となる紛争やトラブルにどのようなものがあるかを理解する【知識・理解】 (2) 上記(1)に関連する法制度(法律)の内容を理解し、他者にわかりやすく説明することができる【汎用的技能】 (3) 上記(1)及び(2)を前提に、これらの紛争やトラブルを未然に回避するためにはどのように行動すればよいかを適切に判断することができる【態度・志向性】						
授業計画	第1回 ガイダンス・法律を学ぶにあたって 第2回 インターネットをめぐる法律問題①(SNS利用時のトラブル) 第3回 インターネットをめぐる法律問題②(著作権侵害、海賊版コンテンツ等) 第4回 男女関係をめぐる法律問題(交際相手からの暴力、ストーカー行為、リベンジポルノ等) 第5回 女性と犯罪被害①(いじめ、性犯罪、盗撮・痴漢、援助交際等) 第6回 女性と犯罪被害②(警察捜査と刑事裁判に関する基礎知識、不法行為責任と民事裁判に関する基礎知識) 第7回 講義前半のまとめ・中間試験 第8回 職場における法律問題①(労働者の諸権利) 第9回 職場における法律問題②(パワーハラスメント、セクシャルハラスメント等) 第10回 女性と社会経済活動(契約責任と会社法制に関する基礎知識) 第11回 女性と貧困(母子家庭を取り巻く諸問題、多重債務、消費者被害) 第12回 家族をめぐる法律問題①(結婚と離婚、不貞行為、配偶者暴力(DV)等) 第13回 家族をめぐる法律問題②(親権、面会交流、養育費、認知等) 第14回 家族をめぐる法律問題③(遺言、相続) 第15回 講義後半のまとめ・期末試験						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	授業前準備学習:教科書の指定された範囲を予習し、各回授業で取り上げる法律やそれが適用される場面についてのイメージを掴み、わからないことや疑問点があれば拾い出しておく。<2時間> 授業後学習:授業で取り上げた内容(紛争・トラブルの実態、関連する法律の趣旨・目的、内容等)を復習し、理解を深める。また、新聞記事、テレビ報道、スマートフォンのニュースアプリ等で関連するトピックを見つけた場合は、積極的に情報を収集し、多様な意見に触れるよう努める。<2時間>						
授業方法	講義形式						
評価基準と評価方法	中間試験40%、期末試験60% 中間試験:授業で取り上げた法制度に対する理解度(到達目標(1)(2))及び運用力(到達目標(3))を評価する。 期末試験:中間試験と同様の評価方法によるほか、女性が直面する具体的な社会問題に関して、問題の所在を見出す力(到達目標(1))及び法制度を念頭に置いた具体的な解決方法を考察する力(到達目標(2)(3))を評価する。 課題に対するフィードバックの方法:中間試験及び期末試験の採点結果を松蔭manabaで講評する。						
履修上の注意	法律に関する基礎知識の有無は問わない。 平易な講義に努めるので、安心して履修してほしい。						
教科書	『おとめ六法』上谷さくら・岸本学著、(株)KADOKAWA、ISBN978-4-04-604779-3						
参考書	なし						

科目区分	社会と人間系列／松蔭とキリスト教系列						
科目名	女性の身体と健康						
担当教員	西川 央江					科目ナンバ-	Z11110
学期	前期／1st semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	女性の身体の健康についての正しい知識と情報を得て、生涯にわたって、女性の健康を維持増進させていくことについての知識の取得						
授業の概要	女性が生涯にわたって身体の健康を維持増進していくためには、一般的な身体の健康に関する知識を基礎に、女性がつまみ・妊娠・出産という男性と異なる特質についての知識が必要となる。本授業では女性の生涯を通じた健康、さらには次世代の健康な育成について様々な観点から考え、自らの身体の健康状態を観察し、健康維持増進に取り組めるよう知識の取得を目指す。						
到達目標	1. 女性の健康課題について理解を深めることができる【知識・理解】 2. 女性の健康保持と増進に必要な知識・情報について理解を深めることができる【知識・理解】 3. 自分の健康課題を見つけることができ、それに対して具体的な改善方法を考えることができる【態度・志向性】						
授業計画	第1回 女性の健康の概念と基本理念（リプロダクティブ・ヘルス/ライフ） 第2回 生活習慣と女性の健康（①食事・排泄） 第3回 生活習慣と女性の健康（②運動・睡眠） 第4回 生涯を通じた女性の健康（①思春期と月経） 第5回 生涯を通じた女性の健康（②月経に関するトラブル） 第6回 生涯を通じた女性の健康（③妊娠・出産） 第7回 生涯を通じた女性の健康（④避妊・中絶） 第8回 生涯を通じた女性の健康（⑤性感染症予防） 第9回 生涯を通じた女性の健康（⑥子宮頸がん・乳がん・大腸がん） 第10回 生涯を通じた女性の健康（⑦ドメスティックバイオレンスとその対応） 第11回 生涯を通じた女性の健康（⑧性暴力被害とその対応） 第12回 生涯を通じた女性の健康（⑨タバコ・薬物による健康への影響） 第13回 生涯を通じた女性の健康（⑩女性アスリートの健康） 第14回 生涯を通じた女性の健康（⑪身体の健康とメンタルヘルス） まとめ試験 第15回 講義全体の学習内容の総復習						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：シラバスを参考に次の講義に関する情報をメディアや文献から得る。そして、自分自身の健康状態を観察し、健康課題を見つける。（学習時間2時間） 授業後学習：講義内容を振り返りまとめる。そして、講義内容ををもとに自分自身の健康を保持増進させる方法を考える（学習時間2時間）						
授業方法	講義：テーマごとに女性の健康について講義を行う。事例紹介時は視覚教材を活用する。テーマに対して、自分の女性としての健康課題を点検し、講義内容を参考に健康増進のために実践することを見出す。						
評価基準と評価方法	まとめ試験60%、授業内での提出物40% まとめ試験：授業で扱った女性としての健康についての課題と保持増進について、理解度を評価する。（到達目標1・2・3に関する到達目標の確認） 授業内での提出物：各回提出のリアクションペーパー（講義についてのコメント・質問・課題への自分の考え）の内容、記述の的確さを評価する。						
履修上の注意	単位認定は出席3分の2以上で行います。自分の健康に関心をもち、より健康になることを目指して健康管理に留意し、出席してください。						
教科書	テキストは指定しない。講義時に資料を配布する。						
参考書	講義時間に随時紹介する。						

科目区分	社会と人間系列／松蔭とキリスト教系列						
科目名	スポーツ実習／（ニュースポーツ）						
担当教員	武村 政徳					科目ナンバ-	Z11126
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜1	配当学年	1～2	単位数	1.0
授業のテーマ	ニュースポーツを通して体を動かすことの楽しさを知り、生涯に渡って運動を継続できる習慣を身につけよう						
授業の概要	ニュースポーツは、20世紀後半以降に新しく考案されたスポーツで、年齢や体力にかかわらず誰もが楽しめるスポーツとして近年注目されています。この授業では、運動不足解消やレクリエーションの一環として導入されている例も多いニュースポーツを実践していきます。						
到達目標	ニュースポーツの各種目のルールを理解し、仲間と協力してプレーすることができる。【態度・志向性】 各種目をプレーするために必要な体力を向上することができる。【態度・志向性】 グループのメンバーやクラス(履修者)のメンバーとコミュニケーションがとれる。【汎用的技能】						
授業計画	<p>【実施スポーツ種目予定】</p> <p>第1週～第5週 『ドッジビー』 第6週～第8週 『パターゴルフ』 第9週～第13週 『ソフトバレーボール』 第14週～第15週 『インディアカ』</p> <p>【内容】</p> <p>第1週：ガイダンスとドッジビーの導入 第2週：ドッジビーを使ったドッジボール 第3週：ドッジビーを使ったチームスポーツ① 第4週：ドッジビーを使ったチームスポーツ② 第5週：ドッジビーを使ったチームスポーツ③ 第6週：パターゴルフの導入 第7週：パターゴルフの実践① 第8週：パターゴルフの実践② 第9週：ソフトバレーボールの導入 第10週：ソフトバレーボールの実践① 第11週：ソフトバレーボールの実践② 第12週：ソフトバレーボールの実践③ 第13週：ソフトバレーボールの実践④ 第14週：インディアカの導入 第15週：インディアカの実践</p>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：各種目のルールを授業中に質問するので、答えられるようにしておいて下さい。（学習時間：1時間） 授業後学習：使用される用具やコート、ゴルフ場などの施設について、資料を収集して授業中の質問に答えられるようにしておいて下さい。（学習時間：1時間）						
授業方法	身体運動を伴う実習および演習						
評価基準と評価方法	1) 学習意欲や施設・用具の取り扱い等の平常点 70% 2) 技能の到達度 30% ※ 運動ができる服装（体操服やシューズ）を忘れた場合は減点します。 ※ 欠席回数が5回以上の者は、成績評価の対象と対象としません。						
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> <li>・服装に関しては原則的に自由ですが、ジーパンなど運動しにくいものは避け、運動ができる服装で出席してください。</li> <li>・靴は体育館では体育館シューズ、屋外では屋外用シューズを使用すること。</li> <li>・20分以上の遅刻は欠席扱いとします。（交通機関延着による遅刻は、延着証明書がある場合は遅刻としない）</li> <li>・遅刻3回で欠席1回とみなします。</li> </ul>						
教科書	特になし						
参考書	必要に応じて授業で紹介する。						

科目区分	社会と人間系列／松蔭とキリスト教系列						
科目名	スポーツ実習／（ニュースポーツ）						
担当教員	武村 政徳					科目ナンバ-	Z11126
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	1～2	単位数	1.0
授業のテーマ	ニュースポーツを通して体を動かすことの楽しさを知り、生涯に渡って運動を継続できる習慣を身につけよう						
授業の概要	ニュースポーツは、20世紀後半以降に新しく考案されたスポーツで、年齢や体力にかかわらず誰もが楽しめるスポーツとして近年注目されています。この授業では、運動不足解消やレクリエーションの一環として導入されている例も多いニュースポーツを実践していきます。						
到達目標	ニュースポーツの各種目のルールを理解し、仲間と協力してプレーすることができる。【態度・志向性】 各種目をプレーするために必要な体力を向上することができる。【態度・志向性】 グループのメンバーやクラス(履修者)のメンバーとコミュニケーションがとれる。【汎用的技能】						
授業計画	<p>【実施スポーツ種目予定】</p> <p>第1週～第5週 『ドッジビー』 第6週～第8週 『パターゴルフ』 第9週～第13週 『ソフトバレーボール』 第14週～第15週 『インディアカ』</p> <p>【内容】</p> <p>第1週：ガイダンスとドッジビーの導入 第2週：ドッジビーを使ったドッジボール 第3週：ドッジビーを使ったチームスポーツ① 第4週：ドッジビーを使ったチームスポーツ② 第5週：ドッジビーを使ったチームスポーツ③ 第6週：パターゴルフの導入 第7週：パターゴルフの実践① 第8週：パターゴルフの実践② 第9週：ソフトバレーボールの導入 第10週：ソフトバレーボールの実践① 第11週：ソフトバレーボールの実践② 第12週：ソフトバレーボールの実践③ 第13週：ソフトバレーボールの実践④ 第14週：インディアカの導入 第15週：インディアカの実践</p>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：各種目のルールを授業中に質問するので、答えられるようにしておいて下さい。（学習時間：1時間） 授業後学習：使用される用具やコート、ゴルフ場などの施設について、資料を収集して授業中の質問に答えられるようにしておいて下さい。（学習時間：1時間）						
授業方法	身体運動を伴う実習および演習						
評価基準と評価方法	1) 学習意欲や施設・用具の取り扱い等の平常点 70% 2) 技能の到達度 30% ※ 運動ができる服装（体操服やシューズ）を忘れた場合は減点します。 ※ 欠席回数が5回以上の者は、成績評価の対象と対象としません。						
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> <li>・服装に関しては原則的に自由ですが、ジーパンなど運動しにくいものは避け、運動ができる服装で出席してください。</li> <li>・靴は体育館では体育館シューズ、屋外では屋外用シューズを使用すること。</li> <li>・20分以上の遅刻は欠席扱いとします。（交通機関延着による遅刻は、延着証明書がある場合は遅刻としない）</li> <li>・遅刻3回で欠席1回とみなします。</li> </ul>						
教科書	特になし						
参考書	必要に応じて授業で紹介する。						

科目区分	社会と人間系列／松蔭とキリスト教系列						
科目名	スポーツ実習／スポーツ実習1／（バドミントン）						
担当教員	渡部 将之					科目ナンバ-	Z11121
学期	前期／1st semester	曜日・時限	木曜1	配当学年	1～2	単位数	1.0
授業のテーマ	生涯スポーツとしてのバドミントンを楽しもう						
授業の概要	本授業では「生涯スポーツ」に適しているバドミントンを実施します。スポーツの実習を行っていく中で、「スポーツ科学」としての講義も盛り込んでいきます。						
到達目標	ダブルスのゲームのルールを理解し、説明できる。【知識・理解】 バドミントンの技術を習得し、戦術を考えてダブルスのゲームを実践出来るようになる。【態度・志向性】 クラス(履修者)のメンバーとコミュニケーションがとれる。【汎用的技能】						
授業計画	1回目：ガイダンス 2回目：バックハンド1：握り方、シングルスゲーム（半面コート）：ルール 3回目：バックハンド2：振り方、シングルスゲーム（半面コート）：ルール（確認） 4回目：バックハンド3：足の運び方、ダブルスゲーム：ルール 5回目：ドライブ1：シャトルのスピード、ダブルスゲーム：ルール 6回目：ドライブ2：足の運び、ダブルスゲーム：サービスのポジション 7回目：スマッシュ1：シャトルのスピード、ダブルスゲーム：サービスの方向 8回目：スマッシュ2：打点の位置、ダブルスゲーム、サービスの受け方：ポジション 9回目：ヘアピン、ダブルスゲーム：サービスの受け方：ラケットの構え方 10回目：ドロップ、ダブルスゲーム：サイドラインへの意識 11回目：パターン練習1：パターンの説明、ダブルスゲーム：エンドラインへの意識 12回目：パターン練習2：リズム、ダブルスゲーム：相手を動かす意識 13回目：パターン練習3：前後への揺さぶり、ダブルスゲーム：ポジショニング1 サービス時 14回目：パターン練習4：正確性、ダブルスゲーム：ポジショニング2 ラリー時 15回目：まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：バドミントンのルールを授業中に質問するので、答えられるようにしておいて下さい。（学習時間：1時間） 授業後学習：使用される用具やコートなどについて、資料を収集して授業中の質問に答えられるようにしておいて下さい。（学習時間：1時間）						
授業方法	身体運動を伴う実習および演習						
評価基準と評価方法	1) 学習意欲や施設・用具の取り扱い等の平常点 70% 2) 技能の到達度 30% ※ 運動ができる服装（体操服やシューズ）を忘れた場合は減点します。 ※ 欠席回数が5回以上の者は、成績評価の対象と対象としません。						
履修上の注意	・運動に適した服装及び体育館シューズを持参して下さい。 ・基本的には初心者を対象としますが、「バドミントンが上手になりたい」と思っている人が履修して下さい。 ・20分以上の遅刻は欠席扱いとします。（交通機関延着による遅刻は、延着証明書がある場合は遅刻としない） ・遅刻3回で欠席1回とみなします。						
教科書	特になし						
参考書	必要に応じて授業で紹介する。						

科目区分	社会と人間系列／松蔭とキリスト教系列						
科目名	スポーツ実習／スポーツ実習1／（バドミントン）						
担当教員	渡部 将之					科目ナンバー	Z11121
学期	前期／1st semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	1～2	単位数	1.0
授業のテーマ	生涯スポーツとしてのバドミントンを楽しもう						
授業の概要	本授業では「生涯スポーツ」に適しているバドミントンを実施します。スポーツの実習を行っていく中で、「スポーツ科学」としての講義も盛り込んでいきます。						
到達目標	ダブルスのゲームのルールを理解し、説明できる。【知識・理解】 バドミントンの技術を習得し、戦術を考えてダブルスのゲームを実践出来るようになる。【態度・志向性】 クラス(履修者)のメンバーとコミュニケーションがとれる。【汎用的技能】						
授業計画	1回目：ガイダンス 2回目：バックハンド1：握り方、シングルスゲーム（半面コート）：ルール 3回目：バックハンド2：振り方、シングルスゲーム（半面コート）：ルール（確認） 4回目：バックハンド3：足の運び方、ダブルスゲーム：ルール 5回目：ドライブ1：シャトルのスピード、ダブルスゲーム：ルール 6回目：ドライブ2：足の運び、ダブルスゲーム：サービスのポジション 7回目：スマッシュ1：シャトルのスピード、ダブルスゲーム：サービスの方向 8回目：スマッシュ2：打点の位置、ダブルスゲーム、サービスの受け方：ポジション 9回目：ヘアピン、ダブルスゲーム：サービスの受け方：ラケットの構え方 10回目：ドロップ、ダブルスゲーム：サイドラインへの意識 11回目：パターン練習1：パターンの説明、ダブルスゲーム：エンドラインへの意識 12回目：パターン練習2：リズム、ダブルスゲーム：相手を動かす意識 13回目：パターン練習3：前後への揺さぶり、ダブルスゲーム：ポジショニング1 サービス時 14回目：パターン練習4：正確性、ダブルスゲーム：ポジショニング2 ラリー時 15回目：まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：バドミントンのルールを授業中に質問するので、答えられるようにしておいて下さい。（学習時間：1時間） 授業後学習：使用される用具やコートなどについて、資料を収集して授業中の質問に答えられるようにしておいて下さい。（学習時間：1時間）						
授業方法	身体運動を伴う実習および演習						
評価基準と評価方法	1) 学習意欲や施設・用具の取り扱い等の平常点 70% 2) 技能の到達度 30% ※ 運動ができる服装（体操服やシューズ）を忘れた場合は減点します。 ※ 欠席回数が5回以上の者は、成績評価の対象と対象としません。						
履修上の注意	・運動に適した服装及び体育館シューズを持参して下さい。 ・基本的には初心者を対象としますが、「バドミントンが上手になりたい」と思っている人が履修して下さい。 ・20分以上の遅刻は欠席扱いとします。（交通機関延着による遅刻は、延着証明書がある場合は遅刻としない） ・遅刻3回で欠席1回とみなします。						
教科書	特になし						
参考書	必要に応じて授業で紹介する。						

科目区分	社会と人間系列／松蔭とキリスト教系列						
科目名	スポーツ実習／スポーツ実習1／（バドミントン）						
担当教員	渡部 将之					科目ナンバ-	Z11121
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	1～2	単位数	1.0
授業のテーマ	生涯スポーツとしてのバドミントンを楽しもう						
授業の概要	本授業では「生涯スポーツ」に適しているバドミントンを実施します。スポーツの実習を行っていく中で、「スポーツ科学」としての講義も盛り込んでいきます。						
到達目標	ダブルスのゲームのルールを理解し、説明できる。【知識・理解】 バドミントンの技術を習得し、戦術を考えてダブルスのゲームを実践出来るようになる。【態度・志向性】 クラス(履修者)のメンバーとコミュニケーションがとれる。【汎用的技能】						
授業計画	1回目：ガイダンス 2回目：バックハンド1：握り方、シングルスゲーム（半面コート）：ルール 3回目：バックハンド2：振り方、シングルスゲーム（半面コート）：ルール（確認） 4回目：バックハンド3：足の運び方、ダブルスゲーム：ルール 5回目：ドライブ1：シャトルのスピード、ダブルスゲーム：ルール 6回目：ドライブ2：足の運び、ダブルスゲーム：サービスのポジション 7回目：スマッシュ1：シャトルのスピード、ダブルスゲーム：サービスの方向 8回目：スマッシュ2：打点の位置、ダブルスゲーム、サービスの受け方：ポジション 9回目：ヘアピン、ダブルスゲーム：サービスの受け方：ラケットの構え方 10回目：ドロップ、ダブルスゲーム：サイドラインへの意識 11回目：パターン練習1：パターンの説明、ダブルスゲーム：エンドラインへの意識 12回目：パターン練習2：リズム、ダブルスゲーム：相手を動かす意識 13回目：パターン練習3：前後への揺さぶり、ダブルスゲーム：ポジショニング1 サービス時 14回目：パターン練習4：正確性、ダブルスゲーム：ポジショニング2 ラリー時 15回目：まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：バドミントンのルールを授業中に質問するので、答えられるようにしておいて下さい。（学習時間：1時間） 授業後学習：使用される用具やコートなどについて、資料を収集して授業中の質問に答えられるようにしておいて下さい。（学習時間：1時間）						
授業方法	身体運動を伴う実習および演習						
評価基準と評価方法	1) 学習意欲や施設・用具の取り扱い等の平常点 70% 2) 技能の到達度 30% ※ 運動ができる服装（体操服やシューズ）を忘れた場合は減点します。 ※ 欠席回数が5回以上の者は、成績評価の対象と対象としません。						
履修上の注意	・運動に適した服装及び体育館シューズを持参して下さい。 ・基本的には初心者を対象としますが、「バドミントンが上手になりたい」と思っている人が履修して下さい。 ・20分以上の遅刻は欠席扱いとします。（交通機関延着による遅刻は、延着証明書がある場合は遅刻としない） ・遅刻3回で欠席1回とみなします。						
教科書	特になし						
参考書	必要に応じて授業で紹介する。						



科目区分	社会と人間系列／松蔭とキリスト教系列						
科目名	スポーツ実習／スポーツ実習2／（テニス）						
担当教員	吉川 小百合					科目ナンバ-	Z11122
学期	前期／1st semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	1～2	単位数	1.0
授業のテーマ	授業では基本技術の習得、ゲームのルールやテニスのマナーを学び応用技術を実習しゲームが出来るように学習する。 テニスの楽しさや出来る喜びを感じる。						
授業の概要	グラウンドストローク（フォアハンド・バックハンド）、ボレー（フォアハンド・バックハンド）、スマッシュ、サーブの技術の習得。各ショットに適したグリップの説明。シングルス及びダブルスのルールの理解、シングルス、ダブルスのゲームの行い方、テニスのマナーの理解、審判の仕方。						
到達目標	テニスの基本技術と応用技術とルールやテニスのマナーを学び、試合をすることが出来る。【態度・志向性】						
授業計画	<p>第1回 授業の説明・授業のねらい・安全管理・評価方法について説明を行う</p> <p>第2回 ラケットとボールに慣れる（ボールの弾み方、ラケットの長さを覚える）</p> <p>第3回 フォアハンドストローク（グリップとボールの回転の理解・トスボールを打つ）</p> <p>第4回 バックハンドストローク（グリップとボールの回転の理解・トスボールを打つ）</p> <p>第5回 グラウンドストローク（ショートラリー・ベースラインラリー）</p> <p>第5回 フォアハンドボレー、バックハンドボレー （グリップとボールの回転の理解・トスボールを打つ・ボレーボレー） ストローク復習</p> <p>第6回 サーブ（グリップとボールの回転の理解）・ストローク・ボレー復習</p> <p>第7回 スマッシュ（グリップとボールの回転の理解）ストローク・ボレー・サーブ復習</p> <p>第8回 ストローク・ボレー・サーブ・スマッシュ復習</p> <p>第9回 フットワークの説明・ストローク・ボレー・サーブ・スマッシュ復習</p> <p>第10回 サービス&amp;レシーブ・ストローク・ボレー・サーブ・スマッシュ復習</p> <p>第11回 ルールの説明・ポイントの数え方・サービス&amp;レシーブ復習</p> <p>第12回～第13回 シングルのゲーム</p> <p>第14回～第15回 ダブルスのゲーム</p> <p>個人の技能に応じてシラバスの内容を変更して指導を行う場合がある。</p>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	<p>授業前学習：授業計画や授業中に予告した内容をもとに、テニス雑誌やインターネット等を調査し関心を高めておく。（学習時間：1時間）</p> <p>授業後学習：ルールの確認と自らの動きを振り返り、さらにプロテニス選手の動画を視聴して、イメージを持つ。（学習時間：1時間）</p>						
授業方法	実技						
評価基準と評価方法	授業への積極的参加度75%（授業への積極的参加度も重視し実技と合わせて総合的に評価する）技術点25%						
履修上の注意	テニスシューズを履くことが望ましい。雨天時はテニスコート横の体育館で行うため上履きシューズを持参すること。 *質問は授業前後に受け付けます。						
教科書	特になし						
参考書	特になし						

科目区分	社会と人間系列／松蔭とキリスト教系列						
科目名	スポーツ実習／スポーツ実習2／（テニス）						
担当教員	吉川 小百合					科目ナンバ-	Z11122
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	1～2	単位数	1.0
授業のテーマ	授業では基本技術の習得、ゲームのルールやテニスのマナーを学び応用技術を実習しゲームが出来るように学習する。 テニスの楽しさや出来る喜びを感じる。						
授業の概要	グラウンドストローク（フォアハンド・バックハンド）、ボレー（フォアハンド・バックハンド）、スマッシュ、サーブの技術の習得。各ショットに適したグリップの説明。シングルス及びダブルスのルールの理解、シングルス、ダブルスのゲームの行い方、テニスのマナーの理解、審判の仕方。						
到達目標	テニスの基本技術と応用技術とルールやテニスのマナーを学び、試合をすることが出来る。【態度・志向性】						
授業計画	<p>第1回 授業の説明・授業のねらい・安全管理・評価方法について説明を行う</p> <p>第2回 ラケットとボールに慣れる（ボールの弾み方、ラケットの長さを覚える）</p> <p>第3回 フォアハンドストローク（グリップとボールの回転の理解・トスボールを打つ）</p> <p>第4回 バックハンドストローク（グリップとボールの回転の理解・トスボールを打つ）</p> <p>第5回 グラウンドストローク（ショートラリー・ベースラインラリー）</p> <p>第5回 フォアハンドボレー、バックハンドボレー （グリップとボールの回転の理解・トスボールを打つ・ボレーボレー） ストローク復習</p> <p>第6回 サーブ（グリップとボールの回転の理解）・ストローク・ボレー復習</p> <p>第7回 スマッシュ（グリップとボールの回転の理解）ストローク・ボレー・サーブ復習</p> <p>第8回 ストローク・ボレー・サーブ・スマッシュ復習</p> <p>第9回 フットワークの説明・ストローク・ボレー・サーブ・スマッシュ復習</p> <p>第10回 サービス&amp;レシーブ・ストローク・ボレー・サーブ・スマッシュ復習</p> <p>第11回 ルールの説明・ポイントの数え方・サービス&amp;レシーブ復習</p> <p>第12回～第13回 シングルのゲーム</p> <p>第14回～第15回 ダブルスのゲーム</p> <p>個人の技能に応じてシラバスの内容を変更して指導を行う場合がある。</p>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	<p>授業前学習：授業計画や授業中に予告した内容をもとに、テニス雑誌やインターネット等を調査し関心を高めておく。（学習時間：1時間）</p> <p>授業後学習：ルールの確認と自らの動きを振り返り、さらにプロテニス選手の動画を視聴して、イメージを持つ。（学習時間：1時間）</p>						
授業方法	実技						
評価基準と評価方法	授業への積極的参加度75%（授業への積極的参加度も重視し実技と合わせて総合的に評価する）技術点25%						
履修上の注意	テニスシューズを履くことが望ましい。雨天時はテニスコート横の体育館で行うため上履きシューズを持参すること。 *質問は授業前後に受け付けます。						
教科書	特になし						
参考書	特になし						

科目区分	社会と人間系列／松蔭とキリスト教系列						
科目名	スポーツ実習／スポーツ実習3／（ゴルフ）						
担当教員	板谷 昭彦					科目ナンバ-	Z11123
学期	前期／1st semester	曜日・時限	水曜1	配当学年	1～2	単位数	1.0
授業のテーマ	生涯スポーツとしてのゴルフ技術の習得						
授業の概要	この授業では、大学生に人気の高いスポーツ種目を取り上げ、学んだスポーツを生涯にわたって実践できる力を養成する。スポーツの知識を学び実践することは、人間の身体に対する正しい知識と、日常生活にも通ずる身体の動かし方を習得し、健康への意識と関心を高めることでもある。スポーツの基礎的技術を習得して得られる満足感と、スポーツをすることの純粋な楽しさ・面白さを体全体で体験できるようにすることで、授業外でのスポーツへの取り組みを促していく。そこで生涯スポーツとして人気のあるゴルフの知識及びスイング理論を学び、基本スイング形成・応用スイング形成の手順及び打球の基本技術・応用技術の習得を目指します。また、ゴルフというスポーツを通して健康づくりや体力づくりの基礎的知識を学びます。						
到達目標	<p>(1) ゴルフスイングの理論および基本的なフォームを習得し、その理論を他者にわかりやすく説明することができる。【知識・理解】</p> <p>(2) その理論を理解し、ショートアイアン（9番）、ミドルアイアン（7番）、ロングアイアン（5番）、ウッドクラブ、それぞれのクラブの機能に合ったボールを打つことができる。【汎用的技能】</p> <p>(3) ゴルフの特色を知り、ゴルフへの興味と関心をより具体的なものとして意識することができる。【態度・志向性】</p>						
授業計画	<p>第1回：ガイダンス（授業の進め方、ゴルフ道具の説明）</p> <p>第2回：グリップ（握り方）、アドレス（構え方）、スイングフォームを作る</p> <p>第3回：プラスチックボールでの打球練習でフォームを作る（1）腕の使い方の習得</p> <p>第4回：プラスチックボールでの打球練習でフォームを作る（2）肩の回転の習得</p> <p>第5回：プラスチックボールでの打球練習でフォームを作る（3）体重移動の習得</p> <p>第6回：プラスチックボールでの打球練習でフォームを作る（4）腕、肩、体重移動を連動させたスイングの習得</p> <p>第7回：ショートアイアン（9番）を使って正規のボールでの打球練習（1）ハーフショットの習得</p> <p>第8回：ショートアイアン（9番）を使って正規のボールでの打球練習（2）フルショットの習得</p> <p>第9回：ミドルアイアン（7番）を使って正規のボールでの打球練習（1）ハーフショットの習得</p> <p>第10回：ミドルアイアン（7番）を使って正規のボールでの打球練習（2）フルショットの習得</p> <p>第11回：ロングアイアン（5番）を使って正規のボールでの打球練習（1）ハーフショットの習得</p> <p>第12回：ロングアイアン（5番）を使って正規のボールでの打球練習（2）フルショットの習得</p> <p>第13回：ウッドクラブを使って正規のボールでの打球練習</p> <p>第14回：ショートアイアンを使ってアプローチショットの練習</p> <p>第15回：実技テスト</p>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	<p>授業前準備学習；テレビやビデオでゴルフの試合等を見て、ゴルフに関する知識を深めておいてください。（90分）</p> <p>授業後学習；授業で取り上げた内容の確認と整理（90分）</p>						
授業方法	実技						
評価基準と評価方法	<p>授業態度70%、技術の到達度30%</p> <p>授業態度：授業への取り組みにより総合的に評価する。</p> <p>技術の到達度：基本的なフォームを理解し習得できているか。また、使用するクラブの機能通り打つことができているか評価する。</p>						
履修上の注意	<p>運動に適した服装で参加すること。ゴルフ用手袋は大学で用意している。</p> <p>授業は、体育館と屋外のゴルフ練習場で行いますので、体育館用シューズと屋外用シューズの両方を準備して下さい。</p> <p>※質問は授業の前後で受け付けます。</p>						
教科書	特になし						
参考書	特になし						

科目区分	社会と人間系列／松蔭とキリスト教系列						
科目名	スポーツ実習／スポーツ実習3／（ゴルフ）						
担当教員	板谷 昭彦					科目ナンバ-	Z11123
学期	前期／1st semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	1～2	単位数	1.0
授業のテーマ	生涯スポーツとしてのゴルフ技術の習得						
授業の概要	この授業では、大学生に人気の高いスポーツ種目を取り上げ、学んだスポーツを生涯にわたって実践できる力を養成する。スポーツの知識を学び実践することは、人間の身体に対する正しい知識と、日常生活にも通ずる身体の動かし方を習得し、健康への意識と関心を高めることでもある。スポーツの基礎的技術を習得して得られる満足感と、スポーツをすることの純粋な楽しさ・面白さを体全体で体験できるようにすることで、授業外でのスポーツへの取り組みを促していく。そこで生涯スポーツとして人気のあるゴルフの知識及びスイング理論を学び、基本スイング形成・応用スイング形成の手順及び打球の基本技術・応用技術の習得を目指します。また、ゴルフというスポーツを通して健康づくりや体力づくりの基礎的知識を学びます。						
到達目標	<p>(1) ゴルフスイングの理論および基本的なフォームを習得し、その理論を他者にわかりやすく説明することができる。【知識・理解】</p> <p>(2) その理論を理解し、ショートアイアン（9番）、ミドルアイアン（7番）、ロングアイアン（5番）、ウッドクラブ、それぞれのクラブの機能に合ったボールを打つことができる。【汎用的技能】</p> <p>(3) ゴルフの特色を知り、ゴルフへの興味と関心をより具体的なものとして意識することができる。【態度・志向性】</p>						
授業計画	<p>第1回：ガイダンス（授業の進め方、ゴルフ道具の説明）</p> <p>第2回：グリップ（握り方）、アドレス（構え方）、スイングフォームを作る</p> <p>第3回：プラスチックボールでの打球練習でフォームを作る（1）腕の使い方の習得</p> <p>第4回：プラスチックボールでの打球練習でフォームを作る（2）肩の回転の習得</p> <p>第5回：プラスチックボールでの打球練習でフォームを作る（3）体重移動の習得</p> <p>第6回：プラスチックボールでの打球練習でフォームを作る（4）腕、肩、体重移動を連動させたスイングの習得</p> <p>第7回：ショートアイアン（9番）を使って正規のボールでの打球練習（1）ハーフショットの習得</p> <p>第8回：ショートアイアン（9番）を使って正規のボールでの打球練習（2）フルショットの習得</p> <p>第9回：ミドルアイアン（7番）を使って正規のボールでの打球練習（1）ハーフショットの習得</p> <p>第10回：ミドルアイアン（7番）を使って正規のボールでの打球練習（2）フルショットの習得</p> <p>第11回：ロングアイアン（5番）を使って正規のボールでの打球練習（1）ハーフショットの習得</p> <p>第12回：ロングアイアン（5番）を使って正規のボールでの打球練習（2）フルショットの習得</p> <p>第13回：ウッドクラブを使って正規のボールでの打球練習</p> <p>第14回：ショートアイアンを使ってアプローチショットの練習</p> <p>第15回：実技テスト</p>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	<p>授業前準備学習；テレビやビデオでゴルフの試合等を見て、ゴルフに関する知識を深めておいてください。（90分）</p> <p>授業後学習；授業で取り上げた内容の確認と整理（90分）</p>						
授業方法	実技						
評価基準と評価方法	<p>授業態度70%、技術の到達度30%</p> <p>授業態度：授業への取り組みにより総合的に評価する。</p> <p>技術の到達度：基本的なフォームを理解し習得できているか。また、使用するクラブの機能通り打つことができているか評価する。</p>						
履修上の注意	<p>運動に適した服装で参加すること。ゴルフ用手袋は大学で用意している。</p> <p>授業は、体育館と屋外のゴルフ練習場で行いますので、体育館用シューズと屋外用シューズの両方を準備して下さい。</p> <p>※質問は授業の前後で受け付けます。</p>						
教科書	特になし						
参考書	特になし						

科目区分	社会と人間系列／松蔭とキリスト教系列						
科目名	スポーツ実習／スポーツ実習4／（ソフトバレーボール）						
担当教員	渡部 将之					科目ナンバ-	Z11124
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜1	配当学年	1～2	単位数	1.0
授業のテーマ	チームスポーツとしてのソフトバレーボールを楽しもう						
授業の概要	本授業ではチームスポーツに適しているソフトバレーボールを実施します。スポーツの実習を行っていく中で、「スポーツ科学」としての講義も盛り込んでいきます。						
到達目標	ソフトバレーボールのゲームのルールを理解し、説明できる。【知識・理解】 技術を習得し、戦術を考えてチームゲームを実践出来るようになる。【態度・志向性】 グループのメンバーやクラス(履修者)のメンバーとコミュニケーションがとれる。【汎用的技能】						
授業計画	第1回 ガイダンス 第2回 オーバーハンドパス ゲーム：ルールの理解 第3回 アンダーハンドサービス、ゲーム：ルールの理解(実践編) 第4回 アンダーハンドパス、ゲーム：ポジショニングの理解 第5回 フローターサービス、ゲーム：ポジショニングの理解(実践編) 第6回 手投げボールのスパイク、ゲーム：ブロックの役割 第7回 トスからのスパイク、ゲーム：ブロックの役割(実践編) 第8回 三段攻撃パターン1、ゲーム：セッターの役割 第9回 三段攻撃パターン2、ゲーム：セッターの役割(実践編) 第10回 三段攻撃パターン3、ゲーム：アタッカーの役割 第11回 コンビネーションプレーパターン1、ゲームアタッカーの役割(実践編) 第12回 コンビネーションプレーパターン2、ゲーム：レシーバーの重要性 第13回 より高度なゲームの戦術 弱点のカバー、ゲーム：レシーバーの重要性(実践編) 第14回 より高度なゲームの戦術 長所の生かし方、ゲーム：総合 第15回 まとめ						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	授業前学習：ソフトバレーボールのルールを授業中に質問するので、答えられるようにしておいて下さい。(学習時間：1時間) 授業後学習：使用される用具やコートなどについて、資料を収集して授業中の質問に答えられるようにしておいて下さい。(学習時間：1時間)						
授業方法	身体運動を伴う実習および演習						
評価基準と評価方法	1) 学習意欲や施設・用具の取り扱い等の平常点 70% 2) 技能の到達度 30% ※ 運動ができる服装(体操服やシューズ)を忘れた場合は減点します。 ※ 欠席回数が5回以上の者は、成績評価の対象と対象としません。						
履修上の注意	・運動に適した服装及び体育館シューズを持参して下さい。 ・基本的には初心者を対象としますが、「ソフトバレーボールが上手になりたい」と思っている人が履修して下さい。 ・20分以上の遅刻は欠席扱いとします。(交通機関延着による遅刻は、延着証明書がある場合は遅刻としない) ・遅刻3回で欠席1回とみなします。						
教科書	特になし						
参考書	必要に応じて授業で紹介する。						

科目区分	社会と人間系列／松蔭とキリスト教系列						
科目名	スポーツ実習／スポーツ実習6／（フィットネス）						
担当教員	益富 真子					科目ナンバ-	Z11125
学期	前期／1st semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	1～2	単位数	1.0
授業のテーマ	フィットネス（健康のために行う運動）についての理論と実践						
授業の概要	フィットネスという言葉の解釈は、元々の「適合」を含め「健康であること」や「健康のための運動」等様々であるが、ここでは健康のために行う運動として捉える。この授業では、ストレッチ、有酸素運動、各種筋力トレーニングやピラティスを組み合わせた形で行い、生涯にわたってスポーツを実践できる力を養成する。身体に関する幅広い知識を学び実践することは健康への意識と関心を高めることでもある。多方面から基礎を学び、スポーツ全般に対する楽しさ・面白さを身体全体で体験することで、授業外でのスポーツへの取り組みを促していく。						
到達目標	自身の体力に合わせて積極的に参加することができる。【態度・志向性】 様々な動きの意味と効果を理解することができる。【知識・理解】 身体の使い方を意識して運動を実施することができる。【態度・志向性】 色々な部位の鍛え方や、ほぐし方を考えることができる。【態度・志向性】						
授業計画	第1回 ガイダンス 第2回 フィットネスとは ピラティス呼吸法 第3回 ストレッチ・ショートエアロ（初心者向け） 筋力トレーニング（腹部） 第4回 ストレッチ・ショートエアロ（初心者向け） ピラティス（呼吸法・基本動作） 第5回 ストレッチ・ショートエアロ（初心者向け） ピラティス（呼吸法・腹部） 第6回 ストレッチ・ショートエアロ（初心者向け） 筋力トレーニング（腰） 第7回 ストレッチ・ショートエアロ（中級） ピラティス（呼吸法・背部） 第8回 ストレッチ・ショートエアロ（中級） 筋力トレーニング（胸部） 第9回 ストレッチ・ショートエアロ（中級） ピラティス（呼吸法・脚） 第10回 ストレッチ・ショートエアロ（中級） 筋力トレーニング（殿部） 第11回 ストレッチ・ショートエアロ（中級） ピラティス（呼吸法・背部 発展形） 第12回 ストレッチ・ショートエアロ（上級） 筋力トレーニング（腕） 第13回 ストレッチ・ショートエアロ（上級） ピラティス 第14回 ストレッチ・ショートエアロ（上級） 筋力トレーニング 第15回 実技まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：授業計画をふまえ、各自必要と思われるストレッチやコアを鍛えるためのトレーニング、呼吸法などを実践しておく。（学習時間：1時間） 授業後学習：実践した授業内容をもとに、各自さらに必要と思われるトレーニングを行い、次に備える。（学習時間：1時間）						
授業方法	実技と講義						
評価基準と評価方法	平常点80%、理解度20% プリント記入内容を含め受講態度を重視し評価する。 体操服やシューズを忘れた場合などは減点する。 できるかできないかではなく、積極的に取り組んでいるかを動きながらチェックする。 出席回数が開講日数の2/3に満たないものには、原則単位認定を行わない。						
履修上の注意	運動に適した服装、および体育館シューズを持参のうえ受講すること。 ※質問は授業の前後で受け付ける。						

教科書	特になし
参考書	特になし

科目区分	社会と人間系列／松蔭とキリスト教系列						
科目名	スポーツ実習／スポーツ実習6／（フィットネス）						
担当教員	益富 真子					科目ナンバ-	Z11125
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	1～2	単位数	1.0
授業のテーマ	フィットネス（健康のために行う運動）についての理論と実践						
授業の概要	フィットネスという言葉の解釈は、元々の「適合」を含め「健康であること」や「健康のための運動」等々々であるが、ここでは健康のために行う運動として捉える。この授業では、ストレッチ、有酸素運動、各種筋力トレーニングやピラティスを組み合わせた形で行い、生涯にわたってスポーツを実践できる力を養成する。身体に関する幅広い知識を学び実践することは健康への意識と関心を高めることでもある。多方面から基礎を学び、スポーツ全般に対する楽しさ・面白さを身体全体で体験することで、授業外でのスポーツへの取り組みを促していく。						
到達目標	自身の体力に合わせて積極的に参加することができる。【態度・志向性】 様々な動きの意味と効果を理解することができる。【知識・理解】 身体の使い方を意識して運動を実施することができる。【態度・志向性】 色々な部位の鍛え方や、ほぐし方を考えることができる。【態度・志向性】						
授業計画	第1回 ガイダンス 第2回 フィットネスとは ピラティス呼吸法 第3回 ストレッチ・ショートエアロ（初心者向け） 筋力トレーニング（腹部） 第4回 ストレッチ・ショートエアロ（初心者向け） ピラティス（呼吸法・基本動作） 第5回 ストレッチ・ショートエアロ（初心者向け） ピラティス（呼吸法・腹部） 第6回 ストレッチ・ショートエアロ（初心者向け） 筋力トレーニング（腰） 第7回 ストレッチ・ショートエアロ（中級） ピラティス（呼吸法・背部） 第8回 ストレッチ・ショートエアロ（中級） 筋力トレーニング（胸部） 第9回 ストレッチ・ショートエアロ（中級） ピラティス（呼吸法・脚） 第10回 ストレッチ・ショートエアロ（中級） 筋力トレーニング（殿部） 第11回 ストレッチ・ショートエアロ（中級） ピラティス（呼吸法・背部 発展形） 第12回 ストレッチ・ショートエアロ（上級） 筋力トレーニング（腕） 第13回 ストレッチ・ショートエアロ（上級） ピラティス 第14回 ストレッチ・ショートエアロ（上級） 筋力トレーニング 第15回 実技まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：授業計画をふまえ、各自必要と思われるストレッチやコアを鍛えるためのトレーニング、呼吸法などを実践しておく。（学習時間：1時間） 授業後学習：実践した授業内容をもとに、各自さらに必要と思われるトレーニングを行い、次に備える。（学習時間：1時間）						
授業方法	実技と講義						
評価基準と評価方法	平常点80%、理解度20% プリント記入内容を含め受講態度を重視し評価する。 体操服やシューズを忘れた場合などは減点する。 できるかできないかではなく、積極的に取り組んでいるかを動きながらチェックする。 出席回数が開講日数の2/3に満たないものには、原則単位認定を行わない。						
履修上の注意	運動に適した服装、および体育館シューズを持参のうえ受講すること。 ※質問は授業の前後で受け付ける。						



教科書	特になし
参考書	特になし

科目区分	社会と人間系列／松蔭とキリスト教系列						
科目名	スポーツ実習／スポーツ実習6／（フィットネス）						
担当教員	益富 真子					科目ナンバ-	Z11125
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	1～2	単位数	1.0
授業のテーマ	フィットネス（健康のために行う運動）についての理論と実践						
授業の概要	フィットネスという言葉の解釈は、元々の「適合」を含め「健康であること」や「健康のための運動」等様々であるが、ここでは健康のために行う運動として捉える。この授業では、ストレッチ、有酸素運動、各種筋力トレーニングやピラティスを組み合わせた形で行い、生涯にわたってスポーツを実践できる力を養成する。身体に関する幅広い知識を学び実践することは健康への意識と関心を高めることでもある。多方面から基礎を学び、スポーツ全般に対する楽しさ・面白さを身体全体で体験することで、授業外でのスポーツへの取り組みを促していく。						
到達目標	自身の体力に合わせて積極的に参加することができる。【態度・志向性】 様々な動きの意味と効果を理解することができる。【知識・理解】 身体の使い方を意識して運動を実施することができる。【態度・志向性】 色々な部位の鍛え方や、ほぐし方を考えることができる。【態度・志向性】						
授業計画	第1回 ガイダンス 第2回 フィットネスとは ピラティス呼吸法 第3回 ストレッチ・ショートエアロ（初心者向け） 筋力トレーニング（腹部） 第4回 ストレッチ・ショートエアロ（初心者向け） ピラティス（呼吸法・基本動作） 第5回 ストレッチ・ショートエアロ（初心者向け） ピラティス（呼吸法・腹部） 第6回 ストレッチ・ショートエアロ（初心者向け） 筋力トレーニング（腰） 第7回 ストレッチ・ショートエアロ（中級） ピラティス（呼吸法・背部） 第8回 ストレッチ・ショートエアロ（中級） 筋力トレーニング（胸部） 第9回 ストレッチ・ショートエアロ（中級） ピラティス（呼吸法・脚） 第10回 ストレッチ・ショートエアロ（中級） 筋力トレーニング（殿部） 第11回 ストレッチ・ショートエアロ（中級） ピラティス（呼吸法・背部 発展形） 第12回 ストレッチ・ショートエアロ（上級） 筋力トレーニング（腕） 第13回 ストレッチ・ショートエアロ（上級） ピラティス 第14回 ストレッチ・ショートエアロ（上級） 筋力トレーニング 第15回 実技まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：授業計画をふまえ、各自必要と思われるストレッチやコアを鍛えるためのトレーニング、呼吸法などを実践しておく。（学習時間：1時間） 授業後学習：実践した授業内容をもとに、各自さらに必要と思われるトレーニングを行い、次に備える。（学習時間：1時間）						
授業方法	実技と講義						
評価基準と評価方法	平常点80%、理解度20% プリント記入内容を含め受講態度を重視し評価する。 体操服やシューズを忘れた場合などは減点する。 できるかできないかではなく、積極的に取り組んでいるかを動きながらチェックする。 出席回数が開講日数の2/3に満たないものには、原則単位認定を行わない。						
履修上の注意	運動に適した服装、および体育館シューズを持参のうえ受講すること。 ※質問は授業の前後で受け付ける。						

教科書	特になし
参考書	特になし

科目区分	社会と人間系列／松蔭とキリスト教系列						
科目名	ダイバーシティ入門						
担当教員	松並 知子					科目ナンバ-	Z11150
学期	前期／1st semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	1~2	単位数	2.0
授業のテーマ	ダイバーシティの実現とは、女性、外国人、障がい者、シニア、LGBTsなど多様な人材が能力を十分に発揮し、活躍できる環境をつくることである。この授業では、ダイバーシティに関する概念や理論を理解し、その実現について考察する						
授業の概要	ダイバーシティに関する理論や歴史的背景、その重要性について理解する。またその実現を阻む偏見や差別が生じるメカニズムについて考察する。さらに、社会状況や具体例、SOGIについて学び、ダイバーシティを実現するための方法や施策について考える。						
到達目標	(1) ダイバーシティの概念や理論、またダイバーシティが重要性を持つようになった歴史的背景を理解できる。【知識・理解】 (2) 多様な人々を価値ある存在として認め、すべての人々の社会的包含とエンパワーメントを求める姿勢を身につけている。【態度・志向性】						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>オリエンテーション：授業内容と授業計画、ダイバーシティとは？</li> <li>ダイバーシティが重要なのはなぜか？</li> <li>多文化教育とダイバーシティ</li> <li>血液型占いはなぜ信じられているのか？ (1) 対人認知とステレオタイプ</li> <li>血液型占いはなぜ信じられているのか？ (2) ステレオタイプと偏見・差別</li> <li>偏見や差別はどこから生じるのか？</li> <li>日本社会におけるダイバーシティ (1) 女性をめぐる状況</li> <li>日本社会におけるダイバーシティ (2) 女性の雇用問題</li> <li>日本社会におけるダイバーシティ (3) ダイバーシティ・マネジメント</li> <li>日本社会におけるダイバーシティ (4) 貧困問題</li> <li>SOGI：ジェンダー・アイデンティティとセクシュアル・オリエンテーション (1) 性自認、性別違和</li> <li>SOGI：ジェンダー・アイデンティティとセクシュアル・オリエンテーション (2) 性的指向</li> <li>なぜ日本のダイバーシティは進まないのか？</li> <li>日本でダイバーシティを実現するために</li> <li>まとめと論述試験</li> </ol>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	ダイバーシティをキーワードに日頃からニュースなどに興味を持ち、情報を得ていること。また参考文献などを使って下調べをしておくこと（学習時間：2時間）。 授業中に配布した資料やプリントを使って復習を行うこと。また、授業内で紹介した参考文献などを活用して理解を深めること（学習時間：2時間）。						
授業方法	基本的に講義形式で進めるが、視聴覚教材や心理テスト、グループ・ディスカッションなどの課題をとり入れることにより、自分自身で考える機会を持つ。時折、授業の後にミニレポートを提出してもらう。課題に対し、きちんと回答している場合は平常点が加点される。また、課題などについて意見を求めることも多いので、積極的な受講態度が望まれる。						
評価基準と評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業態度・参加度（ミニレポート、発言、ディスカッション参加態度）40%</li> <li>最終授業で実施する筆記試験 60%</li> </ul>						
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業初回到授業内容と授業計画を説明するので、できる限り、出席すること。</li> <li>私語は厳禁、携帯電話は鞆にしまうなど、ルールを守る人に限る。</li> </ul>						
教科書	なし						
参考書	<p>青野篤子・田口久美子・沼田あや子・五十嵐元子編著『女性の生きづらさとジェンダー～「片隅」の言葉と向き合う心理学～』有斐閣、2021</p> <p>水無田気流『多様な社会はなぜ難しいか～日本の「ダイバーシティ進化論」』日本経済出版、2021</p>						

科目区分	社会と人間系列／松蔭とキリスト教系列						
科目名	哲学						
担当教員	木下 昌巳					科目ナンバ-	Z11250
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	哲学とは、私たちが日常抱えている常識を突き抜け、世界と人間に対して全体的かつ根源的な認識を獲得しようとする学問である。究極的な意味において世界は何から成り立っているのか？私たち人間は、何をどこまで知ることができるのか？そして、その世界のなかで、私たちはどのように生きていけばよいのか？このような問いに正面から取り組み、可能な限りその解答を得ようとするのが哲学である。この授業では、哲学という学問を初めて学ぶ人に対して古代ギリシアと近世ヨーロッパの主要な哲学者の思想を取り上げ解説する。そして哲学という学問の問題意識と代表的な思想家の思想を学ぶことによって、論理的・抽象的思考の能力を養うことを目指す。						
授業の概要	この授業では、前半では西洋において哲学的思考が誕生した紀元前5世紀から4世紀の古代ギリシアの哲学者の思想を、後半では西洋における哲学的思考の最盛期と言える17世紀から19世紀の重要な哲学者の思想を年代順に取り上げながら、彼らの問題意識と思想内容を解説する。さらに、授業のテーマごとにそれと関連するさまざまな現代的なトピックを取り上げながら、現代における哲学的思想の必要性をあきらかにする。						
到達目標	1. 主要な哲学者の思想を理解することを通じて、哲学という学問の問題意識と思考方法の理解を図る。【知識・理解】 2. 過去の哲学者の考え方の道筋を理解することによって、それを通じてあらゆる学問の基礎となるような理論的・抽象的な思考方法を身につけることができるようにする。【汎用性技能】 3. 哲学とは、難解な専門用語や哲学者の名前や著作名を暗記することではない。生きていくなかで直面するさまざまな問題に対して、常識や先入観によって答えを決めつけるのではなく、そこで問題になっていることを自分の頭で自律的に考える態度を身につけ、それを他者にも理解できような仕方での自分の言葉で説明できるようにする。【態度・指向性】						
授業計画	【哲学とは何か】 01 「哲学」とは何か？－「知を愛する」という営み 【古代ギリシアの哲学】 02 「哲学」の始まり－古代ギリシアと哲学 03 万物の始源を求めて－ミレトス派の問い 04 アキレスと亀－エレア派の思想 05 「よく生きる」ために－ソクラテスの生き方 06 プラトンのイデア論 07 「万学の祖」－アリストテレス 08 アリストテレスの倫理学－「中庸」の思想 【ヨーロッパ近代の哲学】 09 デカルトの哲学1－「私は考える。ゆえに私は存在する。」 10 デカルトの哲学2－心身二元論と唯物論 11 ロックの経験論－生得観念とタブラ・ラサ 12 ヒュームの経験論－因果律の否定 13 ニーチェの思想1－道德の系譜学 14 ニーチェの思想2－貴族道德と奴隷道德 15 21世紀の哲学的課題						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：各回講義前に授業回該当するテキストの章を熟読しておくこと。（学習時間：2時間） 授業後学習：松蔭manabaを活用したフィードバック学習に取り組むこと。授業で使用したスライドのファイルはmanabaにアップロードするので、各自ダウンロードして活用すること。（学習時間：2時間）						
授業方法	パワーポイントを使用したスライドを参照しながら、講義をする。 講義の内容について毎回リアクションペーパーを書いて提出する。						
評価基準と評価方法	1. 毎回の授業のリアクションペーパー30%、授業全体の終了時のレポート70%として総合的に評価する。 2. レポートの書き方の詳細については授業内で説明する。						
履修上の注意	1. 授業回数15回中、3分の1以上の欠席者は原則単位を認定しない。 2. 20分以上の遅刻は欠席扱いとする。 3. レポート未提出者は単位認定を認めない。						
教科書	『物語 哲学の歴史 - 自分と世界を考えるために』、伊藤邦武、中央公論新社、ISBN:978-4121021878						
参考書	『哲学の歴史』全13巻（中央公論新社、2007-2008）ISBN:978-4124035186 他 現在、日本で出版されているもっとも詳しい哲学史。内容は細かいが、授業で取り上げた哲学者とその思想について、さまざまな知識を得ることができる。						

科目区分	社会と人間系列／松蔭とキリスト教系列						
科目名	パイプオルガン実習A／音楽実技IIA						
担当教員	伊藤 純子					科目ナンバ-	Z1212A
学期	前期／1st semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	2～3	単位数	1.0
授業のテーマ	パイプオルガンを美しく演奏する						
授業の概要	「パイプオルガンでコラール変奏曲を演奏する」パイプオルガン入門A Bでの学びの延長線上として、オルガンでコラール変奏曲を演奏する。その演奏に必要な要素として、大オルガンの音の鳴らし方の工夫、音の選び方について、及び、コラールについて学ぶ。						
到達目標	①四声体聖歌の演奏を、メロディーを歌うように演奏できるようになる。【汎用的技能】 ②四声体聖歌の演奏を、各声部を耳で追いながら、美しい音で演奏できるようになる。【汎用的技能】 ③コラール変奏曲の基になっている聖歌について知る。【知識・理解】 ④コラール変奏曲の曲の仕組みを知る。【知識・理解】 ⑤コラール変奏曲演奏のための、オルガンの音の選び方、音の鳴らし方を習得する。【汎用的技能】 ⑥コラール変奏曲を、オルガンで美しく演奏できるようになる。【汎用的技能】 ⑦楽器についての知識を深め、オルガンという楽器の特異性を実感することが出来る。【態度・志向性】						
授業計画	第1回：オリエンテーション 第2回：二声での聖歌演奏の復習（身体の使い方） 第3回：二声での聖歌演奏の復習（美しい音の鳴らし方） 第4回：四声での聖歌演奏方法の探求（身体の使い方） 第5回：四声での聖歌演奏方法の探求（美しい音の鳴らし方） 第6回：選定したコラール変奏曲の基の聖歌についての学び 第7回：選定したコラール変奏曲の基の聖歌の演奏 第8回：コラール変奏曲の演奏への取り掛かり 聖歌歌唱 第9回：コラール変奏曲の曲の構成について 第10回：コラール変奏曲に使用する音色や鍵盤の選定 第11回：コラール変奏曲に使用する音色や鍵盤の工夫 第12回：コラール変奏曲を題材に、美しい音の鳴らし方の工夫 第13回：コラール変奏曲演奏の完成 第14回：試験準備 第15回：試験とまとめ <実技試験>オルガンで聖歌を四声で伴奏（全員で歌唱）、コラール変奏曲の演奏 <筆記試験>講義内容について						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：授業で扱う課題曲についてまず読譜し、その成立や背景についても配布資料等で下調べをする。（学習時間：2時間） 授業後学習：授業における指摘事項を振り返り、演奏に反映できるように練習する。（学習時間：2時間）						
授業方法	解説、実習 オルガン練習室にある小型オルガンを中心に行う						
評価基準と評価方法	平常点（授業に臨む態度）60%、レポート20%、試験20%						
履修上の注意	定員10名程度 履修希望者多数の場合は、受講をお断りする可能性がある 鍵盤演奏経験者が望ましい パイプオルガン入門A Bの履修修了者であることが望ましい 3分の2以上の出席が必要 ※止むを得ない事情により、チャペル内のオルガンを使用できない場合がある						
教科書	特になし（授業時にプリントを配布）						

参考書	日本聖公会 聖歌集
-----	-----------

科目区分	社会と人間系列／松蔭とキリスト教系列						
科目名	パイプオルガン実習B／音楽実技IIB						
担当教員	上野 静江					科目ナンバ-	Z1212B
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	2～3	単位数	1.0
授業のテーマ	パイプオルガンを弾いてみよう（初級）						
授業の概要	学内にあるパイプオルガンを用いて、オルガン演奏の基礎的な実習を行う。コラールを題材に書かれたドイツバロックの平易な小品、さらにグレゴリオ聖歌を題材に書かれたフランス古典の小品を課題とするが、具体的な課題曲については、受講生に応じて個別に決定する。聖歌の伴奏についても取り上げる。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) パイプオルガンを演奏するための基本的な技術を身につける。【知識・理解】</li> <li>2) コラールに基づく小品（ドイツバロック）を演奏できるようになる。【汎用的技能】</li> <li>3) グレゴリオ聖歌に基づく小品（フランス古典）を演奏できるようになる。【汎用的技能】</li> <li>4) 聖歌について、長年歌い継がれてきた歴史的意義を楽曲演奏を通して理解し、体感することができる。【知識・理解】</li> <li>5) 松蔭のオルガンについて詳しく知り、様々なパイプの効果的な使い方を知る。【知識・理解】</li> </ol>						
授業計画	<p>A. 基礎と導入  第1回 オリエンテーション  第2回 オルガン奏法の基礎①（タッチ・楽器へのアプローチの確認）  第3回 オルガン奏法の基礎②（音の組み合わせ）  第4回 オルガン奏法の基礎③（ペダル）</p> <p>B. コラールとドイツバロックの小品  第5回 楽曲への取り組み①（コラール）  第6回 楽曲への取り組み②（コラールと楽曲）  第7回 楽曲への取り組み③（詩編歌）  第8回 楽曲への取り組み④（詩編歌と楽曲）  * 17～18世紀のコラールや詩編歌に基づく作品の中から、各人のレベルに合った曲を選び、よりよい演奏に仕上げていくためのプロセスを楽しみ、技術的な問題、楽曲の解釈等あらゆる側面から探ってゆく。</p> <p>C. グレゴリオ聖歌とフランス古典の小品  第9回 楽曲への取り組み⑤（グレゴリオ聖歌とフランス古典）  第10回 楽曲への取り組み⑥（グランジュ）  第11回 楽曲への取り組み⑦（グランジュ）  第12回 楽曲への取り組み⑧（コルネ）  * グレゴリオ聖歌に基づく小品を取り上げ、松蔭のフランス様式のオルガンに相応しい音の組み合わせとその響きを知る。</p> <p>D. まとめ  第13回 聖歌と伴奏  第14回 クラス内発表会での演奏の準備  第15回 クラス内発表会とその講評  * 学期中に取り組んだ楽曲の中から、任意の曲を選び演奏する。</p>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	<p>授業前準備学習：授業で扱う課題曲についてまず読譜し、その成立や背景についても配布資料等で下調べをする。（学習時間：2時間）</p> <p>授業後学習：授業における指摘事項を振り返り、演奏に反映できるように練習する。（学習時間：2時間）</p> <p>練習の方法、曲への取り組み方については、授業内で詳しく指示します。  練習には学内にある練習用オルガンを活用して下さい。</p>						
授業方法	グループレッスン形式による実技および講義。 毎回のテーマ、楽曲についての解説をすすめながら、受講者各人に応じた課題曲をパイプオルガンで演奏する。						
評価基準と評価方法	毎回の授業における課題の到達度を平常点として評価（50%） レポート（10%）期末試験（40%）						
履修上の注意	鍵盤楽器の経験があり、「パイプオルガン入門」を履修済みであることが望ましい。						



教科書	プリントを配布。楽曲に関しては授業中に随時紹介する。
参考書	<ul style="list-style-type: none"><li>・日本聖公会 聖歌集</li><li>・ルター派 教会讃美歌</li><li>・「クラヴィス」大塚直哉編</li></ul>

科目区分	社会と人間系列／松蔭とキリスト教系列						
科目名	パイプオルガン入門I／パイプオルガン入門A						
担当教員	伊藤 純子					科目ナンバ-	Z11080
学期	集中講義	曜日・時限	集中1	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	パイプオルガンへのアプローチ ～楽器、礼拝、音楽の視点から～						
授業の概要	<p>「パイプオルガンへ多角的に近づく」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・パイプオルガンという楽器について、ルーツと発音の仕組み、歴史や国ごとの違いを学ぶ</li> <li>・礼拝について、また礼拝と音楽との関係性について、概略を学ぶ</li> <li>・オルガンで美しい音を鳴らす工夫と、実際に聖歌を歌い伴奏する体験をする</li> </ul> <p>* 以上について、知識だけではなく、視覚的・聴覚的・身体的体験からの習得の機会とする</p>						
到達目標	<p>①パイプオルガンという楽器について知ることができる 1、しくみ 2、オルガンの歴史 3、オルガン音楽のレパートリー【知識・理解】</p> <p>②礼拝について知ることができる 1、礼拝と歌・オルガンとの関係 2、教会暦とその音楽【知識・理解】</p> <p>③上記①②により「パイプオルガンは息の楽器であり、礼拝と共に歩んできた」ことを習得した上で、実際に聖歌を歌い、美しい伴奏（ソプラノ声部とバス声部の二声）を行うことができる【汎用的技能】【態度・志向性】</p> <p>④上記①～③の習得は、オルガン入門Bにおける四声体聖歌とコラール演奏のための導入となる</p>						
授業計画	<p>第1回：オリエンテーション 第2回：【楽器1】「ルーツと仕組み」パイプオルガンの三大要素について、楽器内部の見学 第3回：【楽器2】「笛について」様々な笛の観察と、それらの特色や違いについて</p> <p>第4回：【楽器3】「オルガンのスタイル」国ごとのオルガンの特色や歴史と、そのスタイル 第5回：【楽器4】「音楽史」オルガン音楽のレパートリーの、音楽史上での位置づけについて 第6回：【演奏1】「オルガンを鳴らす」美しい音を鳴らすためのタッチの基本 第7回：【演奏2】「応用」基本タッチの応用</p> <p>第8回：【礼拝1】「礼拝とは」ミサの起源、様々な礼拝について 第9回：【礼拝2】「礼拝における音楽」古代からグレゴリオ聖歌、現代の聖歌集まで 第10回：【演奏3】「二声での奏楽1」第6回、第7回の体験をもとにオルガンで奏楽 第11回：【演奏4】「二声での奏楽2」各自の練習の成果をもとにオルガンで奏楽</p> <p>第12回：【礼拝3】「教会暦」クリスマス、受難節、イースターについてとその音楽 第13回：【礼拝4】「コラール」ルターの宗教改革からバッハのカンタータまで 第14回：【演奏5】「実技試験」に向けた準備 第15回：試験とまとめ &lt;実技試験&gt;オルガンで聖歌を二声で伴奏（全員で歌唱） &lt;筆記試験&gt;講義内容について</p>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	<p>授業前準備学習：授業で扱う課題曲についてまず丁寧に読譜し、その成立や背景についても配布資料等で調べをする。（学習時間：2時間） 授業後学習：授業における指摘事項を振り返り、演奏に反映できるように準備する。（学習時間：2時間）</p>						
授業方法	<p>授業形態・授業方法： 講義形式の解説、音楽や映像の鑑賞、学生による実習 毎回の後半では、実技を中心に進める オルガン練習室にある小型オルガンを中心に行う</p>						
評価基準と評価方法	<p>平常点（内容：授業に臨む態度）60%、レポート20%、試験20% レポート提出1～2回、試験</p>						
履修上の注意	<p>定員20名程度 履修希望者多数の場合は、受講をお断りする可能性がある 鍵盤楽器経験者が望ましい 3分の2以上の出席が必要</p> <p>※止むを得ない事情により、チャペルの大オルガンを使用できない場合がある</p>						

教科書	特になし（授業時にプリントを配布）
参考書	金澤正剛 著「キリスト教と音楽」＜音楽之友社＞ 大塚直哉 編「クラヴィス～むかしの鍵盤楽器を弾いてみよう～」現代ギター社 日本聖公会 聖歌集

科目区分	社会と人間系列／松蔭とキリスト教系列						
科目名	パイプオルガン入門II／パイプオルガン入門B						
担当教員	上野 静江					科目ナンバ-	Z11090
学期	集中講義	曜日・時限	集中1	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	パイプオルガンを弾いてみよう（入門）						
授業の概要	学内にあるオルガンを用いたパイプオルガン入門。 楽器の構造、歴史、様式を踏まえた上で、演奏に必要な基礎的知識、技術を学ぶ。 パイプを美しく鳴らすための基礎的な奏法からはじめ、聖歌、さらに聖歌に基づく平易な小品を取りあげる。						
到達目標	1) パイプオルガンを演奏するための基礎的な技術を身につける。【知識・理解】 2) 聖歌集について、その内容や成立の背景、教会歴に基づく分類、用い方を知る。【知識・理解】 3) 聖歌を歌詞や旋律の持つ意味を体現しつつ歌いやすく奏楽できるようになる。【汎用的技能】 4) 聖歌に基づく平易なオルガン作品を演奏できるようになる。【汎用的技能】 5) 松蔭のオルガンについて、その特徴、概要を知る。【知識・理解】						
授業計画	A. 導入 第1回 オリエンテーション 第2回 パイプオルガンについての基礎知識 第3回 松蔭のオルガンの概要とその特徴ある響きについて  B. オルガン演奏の基礎 第4回 オルガン奏法の基礎（1）姿勢・呼吸 第5回 オルガン奏法の基礎（2）タッチ・アーティキュレーション  第6回 聖歌について 第7回 聖歌を弾く（1）旋律と歌詞  第8回 聖歌を弾く（2）和声 第9回 聖歌を弾く（3）呼吸を活かす *後期は、クリスマスの聖歌を中心に取り上げる  C. 聖歌に基づくオルガン作品 第10回 コラール前奏曲について 第11回 コラール前奏曲を弾く（1）曲の構造 第12回 コラール前奏曲を弾く（2）音色の工夫  D. まとめ 第13回 クラス内発表会の準備（1）音色の組み合わせ 第14回 クラス内発表会の準備（2）演奏を客観的に捉える訓練 第15回 クラス内発表会（期末試験を兼ねる）とその講評 *学期中に取り組んだ曲の中から聖歌と前奏曲を1曲ずつ選び演奏する						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：授業で扱う課題曲についてまず丁寧に読譜し、その成立や背景についても配布資料等で下調べをする。（学習時間：2時間） 授業後学習：授業における指摘事項を振り返り、演奏に反映できるように準備する。（学習時間：2時間） 読譜や練習の方法、曲への取り組み方については、授業内で詳しく指示します。 練習には学内にある練習用オルガンを活用して下さい。						
授業方法	講義および実技。毎回のテーマ、楽曲についての解説をすすめながら、受講者がテーマに応じた課題をパイプオルガンで演奏する。						
評価基準と評価方法	毎回の授業における課題の到達度を平常点として評価（50%） レポート（10%）期末試験（40%）						
履修上の注意	鍵盤楽器の経験があることが望ましい。						
教科書	プリントを配布。楽曲に関しては随時授業中に紹介する。						

参考書	『クラヴィス』大塚直哉編 聖歌集（日本聖公会）
-----	----------------------------

科目区分	社会と人間系列／松蔭とキリスト教系列						
科目名	文化人類学						
担当教員	松岡 靖					科目ナンバ-	752310
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	木曜1	配当学年	2～3	単位数	2.0
授業のテーマ	文化人類学を教養として学ぶことで、自分たちの文化を相対化しよう。						
授業の概要	本講義では、文化人類学の古典的な民族誌を紹介しながら、非西洋社会の親族構造、婚姻体系、集団形成、男女の性役割などについて学んでいく。異文化の他者について学ぶことは、異文化理解に役立つだけでなく、自文化の中で「あたりまえ」と思い込んでいる諸概念を他者の視点からとらえる客観性を養うことでもある。特に授業では、西洋中心主義的な思考に傾倒しがちな私たち自身を批判的に考察していく。これによって「西洋的思考／非西洋的思考」という単純な二項対立図式に陥ることのない思考を身につけていく。						
到達目標	1. 文化人類学の学説史と民族誌の初歩的知識を理解できる【知識・理解】。 2. 近代的な西洋中心主義の特徴と限界を簡潔に説明できる【知識・理解】。 3. 具体的な文化的差異を題材に自文化の特徴を考察できる【知識・理解】。						
授業計画	第1回 ガイダンス：文化人類学のイメージは？ 第2回 バーチャルツアー：みんぱく・れきはく 第3回 基礎概念(1) 自文化中心と文化相対 第4回 基礎概念(2) ろう文化宣言のインパクト 第5回 基礎概念(3) 親族構造の変容と進化主義 第6回 基礎概念(4) オリエンタリズムとジェンダー 第7回 映像にみる民族誌(1) 南アフリカのスラム 第8回 映像にみる民族誌(2) ネパールの結婚式 第9回 民族誌の古典に挑戦(1) 『男性と女性』 第10回 民族誌の古典に挑戦(2) 『タテ社会の人間関係』 第11回 映像にみる日本の多様性(1) 在日コリアン 第12回 映像にみる日本の多様性(2) アイヌ民族 第13回 映像にみる日本の多様性(3) 琉球・沖縄 第14回 人類学の実践：グループ発表と質疑応答 第15回 全体のまとめ：レポート返却と成績説明						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	1. 授業前学習：各回のキーワードについて調べて授業で発表する〈計10時間〉。 2. 授業後学習：学んだ概念で文化事象を解釈して次回に発表する〈計10時間〉。 3. 期末レポート：文化事象に関するレポートを題目から作成する〈計40時間〉。						
授業方法	1. 前半は教員の講義と視聴覚教材に関するディスカッションを行う。 2. 中盤は教員の解説と視聴覚教材についての質疑応答を取り入れる。 3. 後半はレポートの作成・発表・質疑を準備する指導を取り入れる。						
評価基準と評価方法	1. 平常点40点（毎回のコメントカード、プレゼンテーションなど） 2. レポート60点（現代日本における文化事象を批判的に分析する）						
履修上の注意	1. 授業が理解できなければ遠慮せず積極的に質問すること。 2. 私語等で他の学生に迷惑をかけるなら自ら欠席すること。 3. 2/3以上の出席に満たなければレポート提出資格を失う。						
教科書	とくに指定せず必要な資料を配付する。						
参考書	『男性と女性』 マーガレット・ミード著、田中寿美子・加藤秀俊訳、東京創元社、ISBN9784488006631 『タテ社会の人間関係』 中根千枝、講談社、ISBN9784061155053						

科目区分	社会と人間系列／松蔭とキリスト教系列						
科目名	ボランティア論						
担当教員	山口 宰					科目ナンバ-	Z11180
学期	前期／1st semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	ボランティアの理論と実践						
授業の概要	阪神淡路大震災をひとつの契機としてその存在が一般的に認知されるようになったボランティアは、今日、社会の様々な場面において欠かせない存在となった。そこで本講義では、ボランティアの歴史や現状、多様な学問分野からの理論的な分析、そして国内外の様々な現場における先駆者たちの実践の紹介を通じて、ボランティアの本質に迫ること、そして、グループワーク等を通して実際にボランティアを実践するためのスキルを身につけることを目的とする。						
到達目標	1. ボランティアとは何かを理解し、自身の「ボランティア観」を持つことができる。【知識・理解】 2. ボランティアを実践するための理論と方法を身につけることができる。【知識・理解】						
授業計画	1. オリエンテーション：本講義で学ぶ内容、講義の進め方、成績評価の方法について、詳細に説明を行う。 2. 阪神淡路大震災とボランティア：ボランティアへの認識が広まるきっかけとなった阪神淡路大震災と、そのときに行われたボランティア活動について学ぶ。 3. 東日本大震災とボランティア：東日本大震災の実際と、そのときに行われたボランティア活動について学ぶ。 4. 人はなぜボランティアをするのか：様々な学問分野の手法を用いて、人がなぜボランティアをするのかを分析する。 5. 人はなぜ人を助けるのか：人が人を助ける心理的なメカニズムについて、様々な研究を踏まえながら、社会心理学の観点から考察する。 6. インセンティブとボランティア：インセンティブを与えることが、人の行動にどのような影響を与えるか、またボランティアにどのように結び付くのかを考察する。 7. 富山型デイサービスとボランティア：「富山方式」「共生ケア」として有名になった富山型デイサービスを題材に、先駆者が切り開いてきた福祉のあり方を学ぶ。 8. 新型インフルエンザとボランティア：2009年5月に神戸で新型インフルエンザが流行した際の状況と、ボランティア活動の実態について学ぶ。 9. タイガーマスク運動とボランティア：2010年12月より全国的に広がったタイガーマスク運動を題材に、効果的なボランティアのあり方について考察する。 10. 医療事故とボランティア：様々な医療事故を防ぐために行われているボランティア活動について学び、ボランティア活動のあり方を考える。 11. 小児医療とボランティア：病氣と戦う子どもたちと、子どもたちを支える活動について学び、小児医療のあり方について考える。 12. 終末期医療とボランティア：「その人らしい最期」を支えるボランティアの活動を通して、終末期医療のあり方について考える。 13. 国際ボランティア：国際ボランティア活動の実践事例を紹介するとともに、これからの国際ボランティアのあり方を考察する。 14. スウェーデンとボランティア：スウェーデンの歴史や文化、社会や政治、福祉の現状について学び、スウェーデンが福祉先進国となった理由、我が国が学べることについて考察する。 15. まとめ—これからのボランティアのあり方						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：各回授業で扱う内容について、参考書等で下調べをする（2時間） 授業後学習：授業で取り上げた内容について、参考書等で復習し、理解を深める（2時間）						
授業方法	講義：授業テーマに関連する問題を出題し、ペアまたはグループによるディスカッションを行う グループワーク：授業テーマに関連するグループワークを実施し、その結果を踏まえた講義を行う  【実務経験のある教員等による授業】 社会福祉法人の経営者・コンサルタントとしての実務経験を持つ担当教員が、現場における事例の紹介や、実践的なディスカッションを交えて、ボランティアの理論と実践を指導する。						
評価基準と評価方法	授業ごとに提出するワークシート（20%）、期末レポート（80%）による ワークシートのコメント・質問等については、次回の授業で紹介・解説を行う						
履修上の注意	授業への積極的な参加を期待する						
教科書	授業中に指示						

参考書	「恋するようにボランティアを〔優しき挑戦者たち〕」 (大熊由紀子・2008年・ぶどう社) 「明日の福祉に希望の光を―オリンピアのノーマライゼーション」 (山口 宰・2013年・聖公会出版)
-----	---



科目区分	社会と人間系列／松蔭とキリスト教系列						
科目名	ボランティア論						
担当教員	山口 宰					科目ナンバ-	Z11180
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	ボランティアの理論と実践						
授業の概要	阪神淡路大震災をひとつの契機としてその存在が一般的に認知されるようになったボランティアは、今日、社会の様々な場面において欠かせない存在となった。そこで本講義では、ボランティアの歴史や現状、多様な学問分野からの理論的な分析、そして国内外の様々な現場における先駆者たちの実践の紹介を通じて、ボランティアの本質に迫ること、そして、グループワーク等を通して実際にボランティアを実践するためのスキルを身につけることを目的とする。						
到達目標	1. ボランティアとは何かを理解し、自身の「ボランティア観」を持つことができる。【知識・理解】 2. ボランティアを実践するための理論と方法を身につけることができる。【知識・理解】						
授業計画	1. オリエンテーション：本講義で学ぶ内容、講義の進め方、成績評価の方法について、詳細に説明を行う。 2. 阪神淡路大震災とボランティア：ボランティアへの認識が広まるきっかけとなった阪神淡路大震災と、そのときに行われたボランティア活動について学ぶ。 3. 東日本大震災とボランティア：東日本大震災の実際と、そのときに行われたボランティア活動について学ぶ。 4. 人はなぜボランティアをするのか：様々な学問分野の手法を用いて、人がなぜボランティアをするのかを分析する。 5. 人はなぜ人を助けるのか：人が人を助ける心理的なメカニズムについて、様々な研究を踏まえながら、社会心理学の観点から考察する。 6. インセンティブとボランティア：インセンティブを与えることが、人の行動にどのような影響を与えるか、またボランティアにどのように結び付くのかを考察する。 7. 富山型デイサービスとボランティア：「富山方式」「共生ケア」として有名になった富山型デイサービスを題材に、先駆者が切り開いてきた福祉のあり方を学ぶ。 8. 新型インフルエンザとボランティア：2009年5月に神戸で新型インフルエンザが流行した際の状況と、ボランティア活動の実態について学ぶ。 9. タイガーマスク運動とボランティア：2010年12月より全国的に広がったタイガーマスク運動を題材に、効果的なボランティアのあり方について考察する。 10. 医療事故とボランティア：様々な医療事故を防ぐために行われているボランティア活動について学び、ボランティア活動のあり方を考える。 11. 小児医療とボランティア：病氣と戦う子どもたちと、子どもたちを支える活動について学び、小児医療のあり方について考える。 12. 終末期医療とボランティア：「その人らしい最期」を支えるボランティアの活動を通して、終末期医療のあり方について考える。 13. 国際ボランティア：国際ボランティア活動の実践事例を紹介するとともに、これからの国際ボランティアのあり方を考察する。 14. スウェーデンとボランティア：スウェーデンの歴史や文化、社会や政治、福祉の現状について学び、スウェーデンが福祉先進国となった理由、我が国が学べることについて考察する。 15. まとめ—これからのボランティアのあり方						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：各回授業で扱う内容について、参考書等で下調べをする（2時間） 授業後学習：授業で取り上げた内容について、参考書等で復習し、理解を深める（2時間）						
授業方法	講義：授業テーマに関連する問題を出題し、ペアまたはグループによるディスカッションを行う グループワーク：授業テーマに関連するグループワークを実施し、その結果を踏まえた講義を行う  【実務経験のある教員等による授業】 社会福祉法人の経営者・コンサルタントとしての実務経験を持つ担当教員が、現場における事例の紹介や、実践的なディスカッションを交えて、ボランティアの理論と実践を指導する。						
評価基準と評価方法	授業ごとに提出するワークシート（20%）、期末レポート（80%）による ワークシートのコメント・質問等については、次回の授業で紹介・解説を行う						
履修上の注意	授業への積極的な参加を期待する						
教科書	授業中に指示						

参考書	「恋するようにボランティアを〔優しき挑戦者たち〕」 (大熊由紀子・2008年・ぶどう社) 「明日の福祉に希望の光を―オリンピアのノーマライゼーション」 (山口 宰・2013年・聖公会出版)
-----	---